

### Ⅲ 特集：映画館（上映活動）の現状に関する 詳細調査

1

「映画館（上映活動）の現状に関する詳細調査」  
について

2

映画館（上映活動）の現状に関する詳細調査

（1）3つの映画館（上映活動）のレポート

（2）レポートを読み解く指標

- ① 上映作品の多様性
- ② 関連イベント—地域性に即した上映活動の教育的・社会的意義
- ③ さらに必要な指標・データ

3

課題と展望

資料 | 全国コミュニティシネマ会議 2024

採録 | ディスカッション

“学びの場”としての映画館Ⅱ：  
映画館が「クリエイター」を育成する

## III | [特集] 映画館(上映活動)の現状に関する詳細調査

1

## 「映画館(上映活動)の現状に関する詳細調査」について

川村健一郎 | 立命館大学映像学部教授

「地域における豊かな映画環境の創造」を目指して、コミュニティシネマ憲章が採択されてから20年以上が経過した。その間に、上映メディアはフィルムからデジタルへと転換し、またNetflixをはじめとする動画配信サービスが広く定着する一方で、映画館での公開本数は約2倍の1,300本程度にまで増加した。映画館への甚大な被害をもたらした東日本大震災やコロナ禍も、この間に起こった出来事である。コミュニティシネマとしての映画館(ミニシアター)は、そうした苦境に晒されながらも、憲章に謳われている「使命」をふまえて、地域における映画環境を豊かにするための活動を着実に続けてきた。

その使命とは、「上映環境の地域格差の是正と上映作品の多様性の確保」、「多様なコミュニティに対する多様な上映機会の提供」、「メディアリテラシーの向上など教育的使命を実現すること」、「地域に対する貢献」の四つである。映画館の社会的機能を研究している東海大学准教授の石垣尚志は、この使命に直接言及しているわけではないが、複数の地方都市のミニシアターの調査をふまえて、これらの使命を、端的に「多様性」と「地域性」と読み換えている(石垣尚志「地方都市における映画文化と映画館」『文化政策研究』7号、2014年、188-190頁)。観客の多様な属性と選好に応じることができるように、製作国やジャンル、時代を限定しない、種々雑多な映画群が上映されていること、地域において映画という芸術表現への学びの場が提供されていること、こうした活動を通じて、地域の様々なアクターとの連携が試みられていることは、ミニシアターの特性として、改めて強調されてよい。

「新しい資本主義」の名のもとに、いわゆるコンテンツ・クリエイターの育成が声高に叫ばれるようになった今日、この使命を顧みることには意義がある。なぜなら、コロナ禍におけるミニシアターの支援に立ち上がり、3億円以上の支援金を集めたミニシアター・エイド基金の取り組みが示してくれたように、映画に関わるクリエイターにとって、ミニシアターは映画文化の多様性を守り、長年にわたって地域文化を育んできた存在であり、世界各国の、また様々な時代の映画を体験させてくれた学びの空間であったからである。

内閣府の「新しい資本主義実現会議」において、是枝裕和監督が「少なくとも今の40代までの監督たちは、このようなミニシアターで多様な映画に触れることで監督になっています。観客も同様に、その体験を核にしてコアな映画ファンを形成してきました」と述べたことは記憶に新しい(「新しい資本主義実現会議(第26回)」[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii\\_sihonsyugi/kaigi/dai26/gijisidai.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai26/gijisidai.html))。このように、「映画を観る環境」の豊かさを維持していく努力が、クリエイターの育成においても不可欠なのだという教育的視点は、ミニシアターをめぐる文化政策を考えるうえで、これからいっそう重要になってくると思われる。

しかし、実際のところ、各地域のミニシアターは具体的にどのような活動を展開しているのか。ミニシアターはほとんどがいわゆる系列館ではないので、それぞれ独立事業者である。また、基本的に観客に対するチケット売り上げによって経営されているので、地理や人口規模によって、その活動内容も必然的に一律ではない。

コミュニティシネマ憲章の採択を受けて設立されたコミュニティシネマセンターは、2006年度以来、『映画上映活動年鑑』を発刊して、全国諸地域における映画館数(スクリーン数)、上映本数などのデータの集積を進めてきた。これらは確かに「上映環境の地域格差」を計測するために必要な情報であるが、上記のような、個々の映画館の上映活動の質を評価するには適していない。実際に、ミニシアターはどれほど多様な作品を上映し、どのような教育的使命を担ったイベントを実践し、どのように地域のアクターとの連携に取り組んでいるのか。ミニシアターに通い続けている人々には、日常的に体感されていることではあるが、こうした映画館が日々実践している上映活動を一望するデータはこれまで十分に調査されていなかった。

ここでは、改めて、ミニシアターの活動を質的な観点から検討するために、人口が30万人規模の地方都市のミニシアターおよび、都心に近く人口規模も大きい都市のミニシアター、さらに近隣に映画館のない地域での自主上映活動の三つをモデルとして取り上げる。それぞれの活動で1年間に上映された作品の作品名や製作国、公開規模(当該作品が国内でどれほど多くの館で上映されたか)、ゲスト招聘を含む関連イベントの有無などを一覧で示すことで、地域における上映活動の「多様性」と「地域性」を計測することができるようになるだろう。この調査は入口にすぎず、全国のミニシアターの協力を得ることができれば、今後は、空間的にも時間的にも、その対象を拡張して、データを集積していくことを試みたい。

Ⅲ | [特集] 映画館(上映活動)の現状に関する詳細調査

2

映画館(上映活動)の現状に関する詳細調査

(1) 3つの映画館(上映活動)のレポート

上映活動レポート1：シネマテークたかさき

調査対象期間：2023年1月～12月

映画館。2スクリーン(58席/64席)  
1987年より開催されている「高崎映画祭」が母体となり、2004年にNPO法人たかさきコミュニティシネマを設立、同年12月にミニシアター「シネマテークたかさき」開館。現在、たかさきコミュニティシネマは、シネマテークたかさきのほか、「高崎電気館」、「高崎フィルムコミッション」の運営も行う。近年は群馬県内の映画館がない市町村での移動上映も行っている。

運営団体：NPO法人たかさきコミュニティシネマ 群馬県高崎市あら町202番地  
高崎市人口：約37万人  
近隣の映画館：高崎市 109シネマズ高崎/イオンシネマ高崎  
前橋市 ユナイテッド・シネマ前橋/前橋シネマハウス(ミニシアター)

年間上映本数 日本映画=99本 外国映画=180本 合計 約280本

	上映作品名	若い 作り手	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
1	あの子の夢を水に流して	※	劇映画	遠山昇司	日本	
2	明ける夜に	※	劇映画	堀内友貴	日本	
3	あなたの微笑み		劇映画	リム・カーワイ	日本	
4	あの娘は知らない	※	劇映画	井樫彩	日本	
5	ABYSS アビス	※	劇映画	須藤運	日本	
6	ippo	※	劇映画	柄本佑	日本	
7	市子	※	劇映画	戸田彬弘	日本	
8	1秒先の彼		劇映画	山下敦弘	日本	
9	炎上する君	※	劇映画	ふくだももこ	日本	
10	almost people	※	劇映画	横浜聡子/石井岳龍/加藤拓人/守屋文雄	日本	
11	狼 ラストスタントマン		劇映画	六車俊治	日本	
12	餓鬼が笑う		劇映画	平波亘	日本	
13	風のゆくえ	※	劇映画	石井慎吾	日本	
14	神回	※	劇映画	中村貴一朗	日本	
15	濁いた鉢		劇映画	宇賀那健一	日本	
16	きみとまた	※	劇映画	葉名恒星	日本	
17	銀平町シネマブルース		劇映画	城定秀夫	日本	
18	鯨の骨	※	劇映画	大江崇允	日本	
19	ケイコ 目を澄ませて		劇映画	三宅唱	日本	
20	ケイコ 目を澄ませて(アンコール)		劇映画	三宅唱	日本	
21	コーンフレーク	※	劇映画	磯部鉄平	日本	
22	GOLD FISH		劇映画	藤沼伸一	日本	
23	こちらあみ子	※	劇映画	森井勇佑	日本	
24	さいはて		劇映画	越川道夫	日本	
25	サーチライト-遊星散歩-		劇映画	平波亘	日本	
26	桜色の風が吹く		劇映画	松本准平	日本	
27	雑魚どもよ、大志を抱け!		劇映画	足立紳	日本	
28	さよなら、エリュメントス		劇映画	大野大輔	日本	
29	散歩時間~その日を待ちながら~	※	劇映画	戸田彬弘	日本	
30	THEATERS	※	劇映画	山口雄也/中村公彦/鈴木太一/沖正人	日本	
31	J005311	※	劇映画	河野宏紀	日本	
32	17歳は止まらない	※	劇映画	北村美幸	日本	
33	Single8		劇映画	小中和哉	日本	

	上映作品名	若い 作り手	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
34	せかいのおきく		劇映画	阪本順治	日本	
35	世界は僕らに気づかない	※	劇映画	飯塚花笑	日本	
36	そばかす	※	劇映画	玉田真也	日本	
37	台風クラブ 4Kレストア版		劇映画	相米慎二	日本	
38	TOCKA タスカー	※	劇映画	鎌田義孝	日本	
39	たまつきの夢		劇映画	田口敬太	日本	
40	誰かの花	※	劇映画	奥田裕介	日本	
41	探偵マリコの生涯で一番悲惨な日		劇映画	内田英治 / 片山慎三	日本	
42	茶飲友達		劇映画	外山文治	日本	
43	月		劇映画	石井裕也	日本	
44	天上の花		劇映画	片嶋一貴	日本	
45	遠いところ	※	劇映画	工藤将亮	日本	
46	とべない風船	※	劇映画	宮川博至	日本	
47	風の憂鬱	※	劇映画	磯部鉄平	日本	
48	ナナメのろうか	※	劇映画	深田隆之	日本	
49	逃げきれた夢	※	劇映画	二ノ宮隆太郎	日本	
50	ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい	※	劇映画	金子由里奈	日本	
51	ノベンバー	※	劇映画	ライナル・サルネット	ポーランド・オランダ・エストニア	
52	PERFECT DAYS		劇映画	ヴィム・ヴェンダース	日本	
53	裸足で鳴らしてみせろ	※	劇映画	工藤梨穂	日本	
54	はだかのゆめ	※	劇映画	甫木元空	日本	
55	ハッピーエンディングス		劇映画	大崎章 / 井上康平	日本	
56	花腐し		劇映画	荒井晴彦	日本	
57	春原さんのうた		劇映画	杉田協士	日本	
58	彼岸のふたり	※	劇映画	北口ユースケ	日本	
59	ひとりぼっちじゃない	※	劇映画	伊藤ちひろ	日本	
60	ファンファーレ		劇映画	吉野竜平	日本	
61	福田村事件		劇映画	森達也	日本	
62	PLASTIC		劇映画	宮崎大祐	日本	
63	ほつれる	※	劇映画	加藤拓也	日本	
64	放課後アングラーライフ		劇映画	城定秀夫	日本	
65	ほかげ		劇映画	塚本晋也	日本	
66	ミスモールランド	※	劇映画	川和田恵真	日本	
67	まなみ100%	※	劇映画	川北ゆめき	日本	
68	路辺花草		劇映画	越川道夫	日本	
69	緑のざわめき	※	劇映画	夏都愛未	日本	
70	無情の世界		劇映画	佐向大 / 山岸謙太郎 / 小村昌士	日本	
71	やまぶき		劇映画	山崎樹一郎	日本・フランス	
72	山女	※	劇映画	福永壮志	日本・アメリカ	
73	ゆめのまにまに	※	劇映画	張元香織	日本	
74	赦し	※	劇映画	アンシュル・チョウハン	日本	
75	よっす、おまたせ、じゃあまたね。	※	劇映画	猪股和磨	日本	
76	夜のスカート		劇映画	小谷忠典	日本	
77	LOVE LIFE		劇映画	深田晃司	日本	
78	Love Will Tear Us Apart		劇映画	宇賀那健一	日本	
79	658km、陽子の旅		劇映画	熊切和嘉	日本	
80	ロストサマー	※	劇映画	麻美	日本	
81	うつろいの時をまとう		ドキュメンタリー	三宅流	日本	
82	書かれた顔 4Kレストア版		ドキュメンタリー	ダニエル・シュミット	日本・スイス	
83	ケアを紡いで		ドキュメンタリー	大宮浩一	日本	
84	国葬の日		ドキュメンタリー	大島新	日本	
85	シーナ&ロケッツ 鮎川誠 〜ロックと家族の絆〜		ドキュメンタリー	寺井到	日本	
86	人生クライマー 山野井泰史と垂直の世界 完全版		ドキュメンタリー	武石浩明	日本	
87	絶唱浪曲ストーリー	※	ドキュメンタリー	川上アチカ	日本	
88	戦場記者		ドキュメンタリー	須賀川拓	日本	
89	劇場版センキョナンデス		ドキュメンタリー	ダースレイダー / ブチ鹿島	日本	
90	ただいま、つなかん		ドキュメンタリー	風間研一	日本	
91	チョコレートな人々		ドキュメンタリー	鈴木祐司	日本	
92	ドキュメント サニーデー・サービス		ドキュメンタリー	カンパニー松尾	日本	
93	ハマのドン		ドキュメンタリー	松原文枝	日本	
94	日の丸 寺山修司 40年目の挑発		ドキュメンタリー	佐井大紀	日本	
95	百姓の百の声		ドキュメンタリー	柴田昌平	日本	
96	握る女 縄文人の落とし物		ドキュメンタリー	松本貴子	日本	
97	目の見えない白鳥さん、アートを見にいく		ドキュメンタリー	三好大輔 / 川内有緒	日本	
98	ライフ・イズ・クラミング!		ドキュメンタリー	中原想吉	日本	
99	わたしたちの国立西洋美術館		ドキュメンタリー	大塚敦	日本	



外国映画

	上映作品名	欧米以外	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
1	青いカフタンの仕立て屋		劇映画	マリヤム・トゥザニ	フランス・モロッコ・ベルギー・ デンマーク	
2	あしたの少女	■	劇映画	チョン・ジュリ	韓国	
3	アステロイド・シティ		劇映画	ウェス・アンダーソン	アメリカ	
4	狎鷗亭(アックション) スターダム	■	劇映画	イム・ジンスン	韓国	
5	あのこと		劇映画	オドレイ・ディワン	フランス	
6	アルマゲドン・タイム ある日々の肖像		劇映画	ジェームズ・グレイ	アメリカ	
7	EO		劇映画	イエジー・スコリモフスキ	ポーランド・イタリア	
8	いつかの君にもわかること		劇映画	ウベルト・パゾリーニ	イタリア・ルーマニア・イギリス	
9	遺灰は語る		劇映画	パオロ・タビアーニ	イタリア	
10	ウィ、シェフ!		劇映画	ルイ=ジュリアン・ブティ	フランス	
11	ウーマン・トークンig 私たちの選択		劇映画	サラ・ボーリー	アメリカ	
12	ウエルカム トゥ ダリ		劇映画	メアリー・ハロン	アメリカ・フランス・イギリス	
13	エドワード・ヤンの恋愛時代 4Kレストア版	■	劇映画	エドワード・ヤン	台湾	
14	エリザベート1878		劇映画	マリー・クロイツァー	オーストリア・ルクセンブルク・ ドイツ・フランス	
15	大いなる自由		劇映画	セバスティアン・マイゼ	オーストリア・ドイツ	
16	丘の上の本屋さん		劇映画	クラウディオ・ロッシ・マッシミ	イタリア	
17	同じ下着を着るふたりの女	■	劇映画	キム・セイン	韓国	
18	オマージュ	■	劇映画	シン・スウォン	韓国	
19	ガール・ピクチャー		劇映画	アッリ・ハーバサロ	フィンランド	
20	帰れない山		劇映画	フェリックス・バン・ヒュルニンゲン / シャルロット・ファンデルメルシュ	イタリア・ベルギー・フランス	
21	彼女のいない部屋		劇映画	マチュー・アマルリック	フランス	
22	君は行く先を知らない	■	劇映画	パナー・パナヒ	イラン	
23	逆転のトライアングル		劇映画	リューベン・オストルンド	スウェーデン	
24	熊は、いない	■	劇映画	ジャファル・パナヒ	イラン	
25	栗の森のものがたり		劇映画	グレゴル・ボジッチ	スロベニア	
26	グリーン・ナイト		劇映画	デヴィッド・ロウリー	アメリカ・カナダ・アイルランド	
27	CLOSE/ クローズ		劇映画	ルーカス・ドン	ベルギー・フランス・オランダ	
28	郊外の鳥たち	■	劇映画	チウ・ション	中国	
29	ゴーストワールド		劇映画	テリー・ツワイゴフ	アメリカ	
30	午前4時に/バリの夜は明ける		劇映画	ミカエル・アース	フランス	
31	殺しを呼ぶ卵		劇映画	ジュリオ・クエスティ	イタリア	
32	最高の花婿 ファイナル		劇映画	フィリップ・ドゥ・ショープロン	フランス・ベルギー	
33	サボート・ザ・ガールズ		劇映画	アンドリュース・ブジャルスキー	アメリカ	
34	さらば、わが愛 霸王別姫 4K	■	劇映画	チェン・カイコー	中国・香港・台湾	
35	サントメール ある被告		劇映画	アリス・ディオップ	フランス	
36	シアター・キャンブ		劇映画	モリー・ゴードン/ ニック・リーバーマン	アメリカ	
37	シツク・オブ・マイセルフ		劇映画	クリストファー・ボルグリ	ノルウェー・スウェーデン・ デンマーク・フランス	
38	シャドウブレイ【完全版】	■	劇映画	ロウ・イエ	中国	
39	小説家の映画	■	劇映画	ホン・サンズ	韓国	
40	人生は、美しい	■	劇映画	チェ・グクヒ	韓国	
41	すべてうまくいきますように		劇映画	フランソワ・オゾン	フランス	
42	聖地には蜘蛛が巣を張る	■	劇映画	アリ・アッバシ	デンマーク・ドイツ・スウェーデン・ フランス	
43	セールスガールの考現学	■	劇映画	ジャンチブドルジ・センゲドルジ	モンゴル	
44	卒業〜Tell the World I Love You〜	■	劇映画	ポット・アーノン	タイ	
45	それでも私は生きていく		劇映画	ミア・ハンセン＝ラブ	フランス・イギリス・ドイツ	
46	対峙		劇映画	フラン・克蘭ツ	アメリカ	
47	探偵マーロウ		劇映画	ニール・ジョーダン	アメリカ・アイルランド・フランス	
48	ダンサーインParis		劇映画	セドリック・クラビッシュ	フランス・ベルギー	
49	小さな妻の花	■	劇映画	リー・ルイジュン	中国	
50	沈黙の自叙伝	■	劇映画	マクバル・ムバラク	インドネシア・ポーランド・ドイツ・シンガ ポール・フランス・フィリピン・カタール	
51	テノール人生はハーモニー		劇映画	クロード・ジディ・Jr.	フランス	
52	トゥモロー・モーニング		劇映画	ニック・ウィンストン	イギリス	
53	To Leslie トゥ・レスリー		劇映画	マイケル・モリス	アメリカ	
54	独裁者たちのとき	■	劇映画	アレクサンドル・ゾクーロフ	ベルギー・ロシア	
55	トリとロキタ		劇映画	ジャン＝ピエール・ダルデンヌ/ リュック・ダルデンヌ	ベルギー・フランス	
56	どん底 4Kレストア版		劇映画	ジャン・ルノワール	フランス	
57	泣いたり笑ったり		劇映画	シモーネ・ゴダノ	イタリア	
58	奈落のマイホーム	■	劇映画	キム・ジフン	韓国	
59	苦い涙		劇映画	フランソワ・オゾン	フランス	
60	ノースマン 導かれし復讐者		劇映画	ロバート・エガース	アメリカ	
61	Pearl パール		劇映画	タイ・ウエスト	アメリカ	
62	裸足になって	■	劇映画	ムニア・メドゥール	フランス・アルジェリア	

		上映作品名	欧米以外	劇場画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
63		離ればなれになっても		劇場画	ガブリエレ・ムッチーノ	イタリア	
64		バニシングポイント 4Kデジタルリマスター版		劇場画	リチャード・C・サラフィアン	アメリカ	
65		母の聖戦	■	劇場画	テオドラ・アナ・ミハイ	ベルギー・ルーマニア・メキシコ	
66		ピンク・クラウド	■	劇場画	イウリ・ジェルバーゼ	ブラジル	
67		ファイブ・デビルズ		劇場画	レア・ミシウス	フランス	
68		PHANTOM ユリオンと呼ばれたスパイ	■	劇場画	イ・ヘヨン	韓国	
69		ファルコン・レイク		劇場画	シャルロット・ルボン	カナダ・フランス	
70		不思議の国の数学者	■	劇場画	バク・ドンフン	韓国	
71		ふたりのマエストロ		劇場画	ブリュノ・シツシュ	フランス	
72		フラッグ・デイ 父を想う日		劇場画	ショーン・ベン	アメリカ	
73		ベネデッタ		劇場画	ポール・バーホーベン	フランス	
74		マッドゴッド		劇場画	フィル・ティベット	アメリカ	
75		未来惑星ザルドス		劇場画	ジョン・ブアマン	アメリカ・イギリス・アイルランド	
76		メグレと若い女の死		劇場画	バトリス・ルコント	フランス	
77		モナ・リザ アンド ザ ブラッドムーン		劇場画	アナ・リリー・アミールボアー	アメリカ	
78		ヨーロッパ新世紀		劇場画	クリスティアン・ムンジウ	ルーマニア・フランス・ベルギー	
79		ラ・ブーム1 HDリマスター版		劇場画	クロード・ビノト	フランス	
80		ラ・ブーム2 HDリマスター版		劇場画	クロード・ビノト	フランス	
81		リアリティ		劇場画	ティナ・サッター	アメリカ	
82		理想郷		劇場画	ロドリゴ・ソロゴイエン	スペイン・フランス	
83		ルイス・ウェイン 生涯愛した妻とネコ		劇場画	ウィル・シャープ	イギリス	
84		ルー、パリで生まれた猫		劇場画	ギョーム・メダチュエフスキ	フランス・スイス	
85		6月0日 アイヒマンが処刑された日	■	劇場画	ジェイク・バルトロウ	イスラエル・アメリカ	
86		ロスト・キング 500年越しの運命		劇場画	スティーブン・フリアーズ	イギリス	
87		私、オルガ・ヘブナロヴァー		劇場画	トマーシュ・バインレブ / ベトル・カズダ	チェコ・ポーランド・スロバキア・ フランス	
88		アアルト		ドキュメンタリー	ビルビ・スータリ	フィンランド	
89		アダマン号に乗って		ドキュメンタリー	ニコラ・フィリベール	フランス・日本	
90		擬音 A FOLEY ARTIST	■	ドキュメンタリー	ワン・ワンロー	台湾	
91		クエンティン・タランティノー 映画に愛された男		ドキュメンタリー	タラ・ウッド	アメリカ	
92		クリーデンス・クリアウォーター・リヴァイヴアル トラヴェリン・バンド		ドキュメンタリー	ボブ・スミートン	アメリカ	
93		JFK/新証言 知られざる陰謀【劇場版】		ドキュメンタリー	オリバー・ストーン	アメリカ	
94		ジャン＝リュック・ゴダール 反逆の映画作家		ドキュメンタリー	シリル・ルティ	フランス	
95		世界のはしっこ、ちいさな教室		ドキュメンタリー	エミリー・テロン	フランス	
96		ソウル・オブ・ワイン		ドキュメンタリー	マリー・アンジュ・ゴルバネフスキー	フランス	
97		旅するローマ教皇		ドキュメンタリー	ジャンフランコ・ロージ	イタリア	
98		チーム・ジンバブエのソムリエたち	■	ドキュメンタリー	ワーウィック・ロス / ロバート・コー	オーストラリア	
99		猫と、とうさん		ドキュメンタリー	マイ・ホン	アメリカ	
100		ヒッチコックの映画術		ドキュメンタリー	マーク・カズンズ	イギリス	
101		ピー・ジーズ 栄光の奇跡		ドキュメンタリー	フランク・マーシャル	アメリカ	
102		PRESIDENT プレジデント		ドキュメンタリー	カミラ・ニールセン	デンマーク・ノルウェー・アメリカ・ イギリス	
103		マリー・クワント スウィング・ロンドンの伝説		ドキュメンタリー	サディ・フロスト	イギリス	
104		マリウポリ 7日間の記録		ドキュメンタリー	マンタス・クベダラビチウス	リトアニア・フランス・ドイツ	
105		ミャンマー・ダイアリーズ		ドキュメンタリー	ミャンマー・フィルム・コレクティブ	オランダ・ミャンマー・ノルウェー	
106		モリコーネ 映画が恋した音楽家		ドキュメンタリー	ジュゼッペ・トルナトーレ	イタリア	
107		ランディ・ローズ		ドキュメンタリー	アンドレ・レリス	アメリカ	
108		リバイバル69 〜伝説のロックフェス〜		ドキュメンタリー	ロン・チャップマン	カナダ・フランス	
109		ルードボーイ トロージャン・レコーズの物語		ドキュメンタリー	ニコラス・ジャック・デイビーズ	イギリス	
110		古の王子と3つの花		アニメーション	ミッシェル・オスロ	フランス・ベルギー	
111		オオカミの家+骨(短編)	■	アニメーション	クリストバル・レオン / ホアキン・コシーニャ	チリ	
112		プチ・ニコラ バリがくれた幸せ		アニメーション	アマンディース・フルドン / バンジャマン・マスブル	フランス	
113		マルセル 靴を履いた小さな男		アニメーション	ディーン・フライシャー・キャンブ	アメリカ	
114		エリック・クラプトン アクロス24ナイツ		ODS	デビッド・バーナード	イギリス	
			28				
115	1	アンダーグラウンド 4Kリマスター版		劇場画	エミール・クストリツツァ	フランス・ドイツ・ハンガリー	エミール・クストリツツァ作品
116	2	ドリー・ベルを覚えているかい?		劇場画	エミール・クストリツツァ	ユーゴスラビア	
117	3	歌うつくみがおりました		劇場画	オタル・イオセリアーニ	ソ連	オタル・イオセリアーニ映画祭 〜ジョージア、そしてパリ〜
118	4	田園詩		劇場画	オタル・イオセリアーニ	ソ連	
119	5	四月+水彩画+珍しい花の歌		劇場画	オタル・イオセリアーニ	ジョージア(四月・珍しい花の歌) / ソ連(水彩画)	
120	6	落葉		劇場画	オタル・イオセリアーニ	ジョージア	
121	7	唯一、ゲオルギア		劇場画	オタル・イオセリアーニ	フランス・ドイツ	
122	8	素敵な歌と舟はゆく		劇場画	オタル・イオセリアーニ	フランス・スイス・イタリア	

		上映作品名	欧米以外	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
123	9	ここに幸あり		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・イタリア・ロシア	オタル・イオセリアーニ映画祭 ～ジョージア、そしてパリ～
124	10	蝶採り		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・ドイツ・イタリア	
125	11	月の寵児たち		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・イタリア	
126	12	月曜日に乾杯!		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・イタリア	
127	13	トスカーナの小さな修道院+ある映画作家の手紙。 白黒映画のための七つの断片		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス	
128	14	そして光ありき		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・イタリア・ドイツ	没後60年 ジャン・コクトー映画祭
129	15	汽車はふたたび故郷へ		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・ジョージア	
130	16	群盗、第七章		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・スイス・イタリア・ロシア・ ジョージア	
131	17	エウスカディ、1982年夏+鎗鉄+ジョージアの古い歌		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス(エウスカディ、1982年夏)/ ジョージア(鎗鉄・ジョージアの古い歌)	
132	18	皆さま、ごきげんよう		劇映画	オタル・イオセリアーニ	フランス・ジョージア	
133	19	詩人の血		劇映画	ジャン・コクトー	フランス	ジョン・カサヴェテス レトロスペクティブ
134	20	美女と野獣		劇映画	ジャン・コクトー	フランス	
135	21	オルフェ		劇映画	ジャン・コクトー	フランス	
136	22	ブローニュの森の貴婦人たち		劇映画	ロベール・ブレッソン	フランス	
137	23	フェイスズ		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
138	24	アメリカの影		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	フドイナザーロフ ～ゆかいて切ない夢の旅
139	25	こわれゆく女		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
140	26	チャイニーズ・ブッキーを殺した男		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
141	27	オープニング・ナイト		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
142	28	ラヴ・ストリームス		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
143	29	グロリア		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	ビエール・エテックス レトロスペクティブ
144	30	ハズバンス		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
145	31	メルビンとハワード		劇映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
146	32	猫たちのアパートメント	ドキュメンタリー	チョン・ジェウン	韓国	韓国	
147	33	子猫をお願い 4Kリマスター版		劇映画	チョン・ジェウン	韓国	
148	34	少年、機関車に乗る		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	タジキスタン・ソ連	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー 傑作選
149	35	コシュ・バ・コシュ 恋はロープウェイに乗って		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	タジキスタン	
150	36	ルナ・ババ		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	ドイツ・オーストリア・日本	
151	37	海を待ちながら		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	ロシア・ベルギー・フランス・ カザフスタン・ドイツ・タジキスタン	
152	38	スーツ		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	ロシア・ウクライナ・ドイツ・フランス	
153	39	ヨーヨー		劇映画	ビエール・エテックス	フランス	アレクサンドル・ソクーロフ監督特集
154	40	健康でさえあれば+絶好調		劇映画	ビエール・エテックス	フランス	
155	41	大恋愛+幸福な結婚記念日		劇映画	ビエール・エテックス / ジャン＝クロード・カリエール (幸福な結婚記念日)	フランス	
156	42	恋する男+破局		劇映画	ビエール・エテックス / ジャン＝クロード・カリエール (破局)	フランス	
157	43	不安は魂を食いつくす		劇映画	ライナー・ベルナー・ファスビンダー	西ドイツ	
158	44	マリア・ブラウンの結婚		劇映画	ライナー・ベルナー・ファスビンダー	西ドイツ	アレクサンドル・ソクーロフ監督特集
159	45	天使の影		劇映画	ダニエル・シュミット	スイス	
160	46	雨にぬれた舗道		劇映画	ロバート・アルトマン	アメリカ・カナダ	
161	47	イメージズ		劇映画	ロバート・アルトマン	イギリス	
162	48	ロング・グッドバイ		劇映画	ロバート・アルトマン	アメリカ	
163	49	ストーン〜クリミアの亡霊		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	チャン・リュル
164	50	セカンド・サークル		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
165	51	アレクサンドラの旅		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア・フランス	
166	52	ヒトラーのためのソナタ ※ベテルブルクエレジーと併映		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ソ連	
167	53	ファザー、サン		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ドイツ・ロシア・フランス・イタリア・ オランダ	
168	54	ベテルブルクエレジー ※ヒトラーと併映		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ソ連	夏休みの映画館 2023
169	55	マザー、サン		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ドイツ・ロシア	
170	56	マリア ※太陽と併映		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
171	57	モレク神		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア・ドイツ・日本・イタリア・フランス	
172	58	ロシアンエレジー		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
173	59	牡牛座〜レーニンの肖像		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	チャン・リュル
174	60	孤独な声		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ソ連	
175	61	静かなる一頁		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア・ドイツ	
176	62	太陽 ※マリアと併映		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	スイス・ロシア・イタリア・フランス	
177	63	日々はしづかに発酵し		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ソ連	
178	64	福岡		劇映画	チャン・リュル	韓国・日本・中国	夏休みの映画館 2023
179	65	群山		劇映画	チャン・リュル	韓国	
180	66	柳川		劇映画	チャン・リュル	中国	
		アニメーション		アニメーション	ノーマン・マクラレン、山村浩二ほか	カナダ・日本	
		音のない世界で		ドキュメンタリー	ニコラ・フィリベール	フランス	
		ロイドの巨人征服		劇映画	フレッド・ニューメイヤー / サム・ティラー	アメリカ	夏休みの映画館 2023
		ルパン三世カリオストロの城		アニメーション	宮崎駿	日本	



上映活動レポート2：横浜シネマリン

調査対象期間：2023年6月～2024年5月

映画館。1スクリーン(102席)  
1964年につくられた映画館「横浜シネマリン」が2014年3月に休館に入った。その後、現在の運営者が同館を受け継ぎ12月にリニューアルオープン、ミニシアターとして運営を続けている。  
運営団体:有限会社横浜シネマリン 神奈川県横浜市中区長者町 6-95  
横浜市人口:337万 1000 人 中区 15万 3528 人  
近隣の映画館(横浜市中区):  
シネマコンプレックス:横浜ブルク 13、イオンシネマみなとみらい  
ミニシアター:シネマジック&ベティ 既存興行館:県民共済シネマホール  
成人映画館:光音座

年間上映本数 日本映画=139本 外国映画=164本 合計 303本

日本映画

	上映作品名	若い 作り手	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
1	愛のこむらがえり		劇映画	高橋正弥	日本	
2	青すぎる、青		劇映画	今関あきよし	日本	
3	悪は存在しない		劇映画	濱口竜介	日本	
4	明ける夜に	※	劇映画	堀内友貴	日本	
5	明日香に生きる		劇映画	溝渕雅幸	日本	
6	あずきと雨	※	劇映画	隈元博樹	日本	
7	AFTERGLOWS	※	劇映画	木村太一	日本	
8	アヤクレーチョの唄と秩父の山		劇映画	ホンマタカシ	日本	
9	命の満ち欠け	※	劇映画	小関翔太/岸建太朗	日本	
10	うかうかと終焉	※	劇映画	大田雄史	日本	
11	海鳴りがきこえる	※	劇映画	岩崎孝正	日本	
12	映画(窒息)	※	劇映画	長尾元	日本	
13	過去食う者		劇映画	松橋淳	日本	
14	風よ あらしよ 劇場版		劇映画	柳川強	日本	
15	彼方のうた		劇映画	杉田協士	日本	
16	釜石ラーメン物語		劇映画	今関あきよし	日本	
17	KAMIKAZE TAXI インターナショナルバージョン		劇映画	原田真人	日本	
18	カミイのうた		劇映画	菅原浩志	日本	
19	こわれること いきること		劇映画	北沢幸雄	日本	
20	さよならエリュマントス		劇映画	大野大輔	日本	
21	シンデレラガール		劇映画	緒方貴臣	日本	
22	青春墓場		劇映画	奥田庸介	日本	
23	戦場のメリークリスマス 4Kレストア版		劇映画	大島渚	日本/イギリス/ ニュージーランド	
24	台風クラブ 4Kレストア版		劇映画	相米慎二	日本	
25	デスゲーム	※	劇映画	遊佐和寿	日本/ベトナム	
26	東京組曲 2020		劇映画	三島有紀子	日本	
27	なんでかね〜鶴見 〜ガーエーにはまだ早い〜	※	劇映画	渡辺 熱	日本	
28	走れない人の走り方	※	劇映画	蘇 鈺 淳	日本	
29	光る鯨		劇映画	森田博之	日本	
30	火だるま桃多よ		劇映画	佐藤寿保	日本	
31	福田村事件		劇映画	森達也	日本	
32	ほかげ		劇映画	塚本晋也	日本	
33	まなみ 100%	※	劇映画	川北ゆめき	日本	
34	ムイト・ブラゼール		劇映画	朴正一	日本	
35	老ナルキソス		劇映画	東海林毅	日本	
36	658km、陽子の旅		劇映画	熊切和嘉	日本	
37	若武者	※	劇映画	二ノ宮隆太郎	日本	
38	わたしのかあさん天使の詩		劇映画	山田火砂子	日本	
39	アリラン ラブノディ 〜海を越えたハルモニたち〜		ドキュメンタリー	金聖雄	日本	
40	1%の風景	※	ドキュメンタリー	吉田夕日	日本	
41	映画 〇月〇日、区長になる女。		ドキュメンタリー	ベヤンヌマキ	日本	
42	鉛筆と銃 長倉洋海の眸		ドキュメンタリー	河邑厚徳	日本	
43	沖縄狂想曲		ドキュメンタリー	太田隆文	日本	
44	書かれた顔 4Kレストア版		ドキュメンタリー	ダニエル・シュミット	日本/スイス	
45	かづ彥的		ドキュメンタリー	熊谷博子	日本	
46	カメラを持った男たち ー関東大震災を撮るー		ドキュメンタリー	井上実	日本	

		上映作品名	若い 作り手	創映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
47		シーナ&ロケッツ 鮎川誠 〜ロックと家族の絆〜		ドキュメンタリー	寺井到	日本	
48		スズさんー昭和の家事と家族の物語ー		ドキュメンタリー	大増敦	日本	
49		絶唱浪曲ストーリー	※	ドキュメンタリー	川上アチカ	日本	
50		ドキュメント サニーデー・サービス		ドキュメンタリー	カンパニー松尾	日本	
51		にわのすなば GARDEN SANDBOX		ドキュメンタリー	黒川幸則	日本	
52		NEVER MIND DA 渋谷知らズ 番外地篇		ドキュメンタリー	佐藤訪米	日本	
53		望むのは死刑ですか オウム”大執行”と私【告白編】		ドキュメンタリー	長塚洋	日本	
54		ハマのドン		ドキュメンタリー	松原文枝	日本	
55		ハマのドン (アンコール)		ドキュメンタリー	松原文枝	日本	
56		プリング・ミンヨー・バック!		ドキュメンタリー	森脇由二	日本	
57		ペーパージンティ 東京大空襲の記憶		ドキュメンタリー	エイドリアン・フランシス	オーストラリア	
58		劇場版 僕らの Galileo Galilei 〜会えたね〜	※	ドキュメンタリー	岩井郁人/尾崎雄貴	日本	
59		Maelstrom マエルストロム		ドキュメンタリー	山岡瑞子	日本	
60		丸木位里・丸木俊 沖縄戦の図 全14部		ドキュメンタリー	河邑厚徳	日本	
61		ヤジと民主主義 劇場拡大版		ドキュメンタリー	山崎裕待	日本	
62		Yokosuka 1953		ドキュメンタリー	木川泰輔	日本	
63		わたしたちの国立西洋美術館 奇跡のコレクションの舞台裏		ドキュメンタリー	大増敦	日本	
64	1	青春ジャック 止められるか、俺たちを2		劇映画	井上淳一	日本	映画監督 若松孝二
65	2	止められるか、俺たちを		劇映画	白石和彌	日本	
66	3	甘い罠		劇映画	若松孝二	日本	
67	4	恐るべき遺産 裸の影		劇映画	若松孝二	日本	
68	5	鉛の墓標		劇映画	若松孝二	日本	
69	6	逆情		劇映画	若松孝二	日本	
70	7	歪んだ関係		劇映画	若松孝二	日本	
71	8	壁の中の秘事		劇映画	若松孝二	日本	
72	9	欲望の血がしたたる		劇映画	若松孝二	日本	
73	10	血は太陽よりも赤い		劇映画	若松孝二	日本	
74	11	HOW TO LOVE 浮気の心得/犯された白衣		劇映画	若松孝二	日本	
75	12	胎児が密猟する時		劇映画	若松孝二	日本	
76	13	日本暴行暗黒史 異常者の血		劇映画	若松孝二	日本	
77	14	性の放浪		劇映画	若松孝二	日本	
78	15	性犯罪		劇映画	若松孝二	日本	
79	16	続日本暴行暗黒史 暴虐魔		劇映画	若松孝二	日本	
80	17	腹貸し女		劇映画	若松孝二	日本	
81	18	日本暴行暗黒史 復讐鬼		劇映画	若松孝二	日本	
82	19	現代性犯罪暗黒編 ある通り魔の告白		劇映画	若松孝二	日本	
83	20	狂走情死考		劇映画	若松孝二	日本	
84	21	ゆけゆけ二度目の処女		劇映画	若松孝二	日本	
85	22	現代好色伝/テロルの季節		劇映画	若松孝二	日本	
86	23	裸の銃弾(やわ肌無宿 男殺し女殺し)		劇映画	若松孝二	日本	
87	24	処女ゲバゲバ		劇映画	若松孝二	日本	
88	25	現代性犯罪絶叫篇 理由なき暴行		劇映画	若松孝二	日本	
89	26	新宿マッド		劇映画	若松孝二	日本	
90	27	カーマ・スートラより 性教育書 愛のテクニック		劇映画	若松孝二	日本	
91	28	性賊/セックスジャック		劇映画	若松孝二	日本	
92	29	日本暴行暗黒史 怨獣		劇映画	若松孝二	日本	
93	30	性輪廻(セグラマグラ)死にたい女		劇映画	若松孝二	日本	
94	31	秘花		劇映画	若松孝二	日本	
95	32	性家族		劇映画	若松孝二	日本	
96	33	天使の恍惚		劇映画	若松孝二	日本	
97	34	聖少女拷問		劇映画	若松孝二	日本	
98	35	水のないプール		劇映画	若松孝二	日本	
99	36	衝撃 パフォーマンス		劇映画	若松孝二	日本	
100	37	キスより簡単		劇映画	若松孝二	日本	
101	38	実録・連合赤軍 あさま山荘への道程		劇映画	若松孝二	日本	
102	39	キャタピラー		劇映画	若松孝二	日本	
103	40	11.25自決の日 三島由紀夫と若者たち		劇映画	若松孝二	日本	
104	41	海燕ホテル・ブルー		劇映画	若松孝二	日本	
105	42	千年の愉楽		劇映画	若松孝二	日本	
106	43	赤軍-PFLP 世界戦争宣言		ドキュメンタリー	若松孝二	日本	
107	44	世界大戦争		劇映画	松林宗恵	日本	「戦争と平和」宝田明さん 〜魂のメッセージ〜
108	45	接吻泥棒		劇映画	川島雄三	日本	
109	46	その場所に女ありて		劇映画	鈴木英夫	日本	
110	47	日光物語		劇映画	五藤利弘	日本	
111	48	戦争と平和〜宝田明の証言〜		ドキュメンタリー	後閑広	日本	
112	49	ドキュメンタリー沖縄戦 知られざる悲しみの記憶		ドキュメンタリー	太田隆文	日本	

		上映作品名	若い 作り手	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
113	50	愛のコリダ 修復版		劇映画	大島渚	日本	藤竜也傑作選
114	51	行き止まりの挽歌 プレイクアウト		劇映画	村川透	日本	
115	52	黄金のパートナー		劇映画	西村潔	日本	
116	53	俠花列伝 襲名賭博		劇映画	小沢啓一	日本	
117	54	高野豆腐店の春		劇映画	三原光尋	日本	
118	55	しあわせのかおり		劇映画	三原光尋	日本	
119	56	友よ、静かに眠れ		劇映画	崔洋一	日本	
120	57	堀の中の戀りない面々		劇映画	森崎東	日本	
121	58	村の写真集		劇映画	三原光尋	日本	
122	59	野獣を消せ		劇映画	長谷部安春	日本	
123	60	シヨンベン・ライダー		劇映画	相米慎二	日本	
124	61	東京自転車節		ドキュメンタリー	青柳拓		青柳拓監督
125	62	フジヤマコットントン		ドキュメンタリー	青柳拓	日本	
126	63	いつか、どこかで		劇映画	リム・カーワイ	日本	リム・カーワイ監督
127	64	どこでもない、ここしかない		劇映画	リム・カーワイ	日本	
128	65	すべて、至るところにある		劇映画	リム・カーワイ	日本	
129	66	愛しきソナ		ドキュメンタリー	ヤンヨンヒ	韓国/日本	映画監督ヤン ヨンヒと家族の肖像
130	67	スープとビデオロジー		ドキュメンタリー	ヤンヨンヒ	韓国/日本	
131	68	ディア・ピョンヤン		ドキュメンタリー	ヤンヨンヒ	日本	
132	69	ひろしまー 1945年8月6日、原子雲の下の実実ー		劇映画	関川秀雄	日本	戦争
133	70	野火		劇映画	塚本晋也	日本	
134	71	東京裁判 4Kデジタルリマスター版		ドキュメンタリー	小林正樹	日本	
135	72	不壊の白珠		劇映画	清水宏	日本	柳下美恵のピアノdeフィルム
136	73	限りなき舗道		劇映画	成瀬巳喜男	日本	柳下美恵のピアノdeフィルムvol.11
137	74	セルギー神父		劇映画	ヤーコフ・アレクサンドロヴィッチ・ プロタゼーノフ	ロシア	柳下美恵のピアノdeフィルムvol.10
138	75	青の帰り道		劇映画	藤井道人	日本	ミニシアター地域交流上映会 Vol.4
139	76	IL VOLO in 清水寺 ～京都世界遺産ライブ～		ODS	又平享	日本	

15

外国映画

		上映作品名	欧米以外	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名/備考
1	1	赤い糸 輪廻のひみつ	■	劇映画	ギデنز・コー	台湾	
2	2	After Me Too アフター・ミー・トゥー	■	劇映画	バク・ソヒョン/イ・ソミ/ カン・ユ・ガラム/ソラム	韓国	
3	3	遺灰は語る		劇映画	パオロ・タヴィアーニ	イタリア	
4	4	ヴェルクマイスター・ハーモニー 4Kレストア版		劇映画	タル・ペーラ	ハンガリー / ドイツ / フラ ンス	
5	5	大いなる自由		劇映画	セバスティアン・マイゼ	オーストリア/ドイツ	
6	6	ガール・ピクチャー		劇映画	アッリ・ハーバサロ	フィンランド	
7	7	金持を喰いちぎれ		劇映画	ピーター・リチャードソン	イギリス	
8	8	神の道化師、フランチェスコ(デジタル・リマスター版)		劇映画	ロベルト・ロッセリーニ	イタリア	
9	9	熊は、いない	■	劇映画	ジャファル・パナヒ	イラン	
10	10	栗の森のものがたり		劇映画	グレゴル・ボジッチ	スロベニア	
11	11	コット、はじまりの夏		劇映画	コルム・バレード	アイルランド	
12	12	最悪な子どもたち		劇映画	リーズ・アコカ/ロマーヌ・グレ	フランス	
13	13	さらば、わが愛/覇王別姫 4K	■	劇映画	チェン・カイコー	中国/香港/台湾	
14	14	少年と犬		劇映画	L・Q・ジョーンズ	アメリカ	
15	15	少年	■	劇映画	チェン・クンホウ	台湾	
16	16	成功したオタク	■	劇映画	オ・セヨン	韓国	
17	17	世界が引き裂かれる時	■	劇映画	マリナ・エル・ゴルバチ	ウクライナ/トルコ	
18	18	ソウルに帰る	■	劇映画	ダビ・シュー	韓国	
19	19	それでも私は生きていく		劇映画	ミア・ハンセン＝ラヴ	フランス	
20	20	テルマ&ルイーズ 4K		劇映画	リドリ・スコット	アメリカ	
21	21	燈火は消えず	■	劇映画	アナスタシア・ツァン	香港	
22	22	ノスタルジア 4K 修復版		劇映画	アンドレイ・タルコフスキー	イタリア/旧ソ連	
23	23	ピアノ・レッスン 4K デジタルリマスター	■	劇映画	ジェーン・カンピオン	オーストラリア/ニュージー ランド/フランス	
24	24	ビー・ガン / ショートストーリー	■	劇映画	ビー・ガン	中国/フランス	
25	25	ヒッチコックの映画術		劇映画	マーク・カズンズ	イギリス	
26	26	ファースト・カウ		劇映画	ケリー・ライカート	アメリカ	
27	27	僕と幽霊が家族になった件	■	劇映画	チェン・ウェイハオ	台湾	
28	28	ミツパチと私		劇映画	エスティバリス・ウレソラ・ソラグレン	スベイン	
29	29	無名	■	劇映画	チェン・アル	中国	
30	30	理想郷		劇映画	ロドリゴ・ソロゴイエ	スペイン/フランス	
31	31	ロスト・キング 500年越しの運命		劇映画	スティーブン・フリアーズ	イギリス	

		上映作品名	欧米以外	劇映画 / アニメ / ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名 / 備考
32	32	Rodeo ロデオ		劇映画	ローラ・キボロン	フランス	
33	33	私はモーリーン・カーニー 正義を殺すのは誰？		劇映画	ジャン＝ポール・サロメ	フランス / ドイツ	
34	34	私、オルガ・ヘブナロヴァー		劇映画	トマーシュ・バインレプ / ベトル・カズダ	チェコ / ポーランド / スロバキア / フランス	
35	35	エリック・クラプトン アクロス24ナイツ		ドキュメンタリー	デヴィッド・バーナード	イギリス	
36	36	オスカー・ピーターソン		ドキュメンタリー	バリー・アブリッチ	カナダ	
37	37	ガザ 素顔の日常		ドキュメンタリー	ガリー・キーン / アンドリュウ・マコーネル	アイルランド / カナダ / ドイツ	
38	38	キャロル・キング ホーム・アゲイン ライブ・イン・セントラルパーク		ドキュメンタリー	ジョージ・スコット	アメリカ	
39	39	クレーデンス・クリアウォーター・リヴィヴァイヴァルトラヴェリン・バンド		ドキュメンタリー	ボブ・スミートン	アメリカ	
40	40	グレート・グリーン・ウォール		ドキュメンタリー	ジャレッド・P・スコット	イギリス	
41	41	劇場版 再会长江	■	ドキュメンタリー	竹内亮	中国	
42	42	“敵”の子どもたち		ドキュメンタリー	ゴルキ・グラセル＝ミューラー	スウェーデン / デンマーク / カタール	
43	43	北京冬季五輪2022	■	ドキュメンタリー	ルー・チューアン	中国	
44	44	ぼくたちの哲学教室		ドキュメンタリー	ナーサ・ニ・キアナン / デクラン・マッグラ	アイルランド / イギリス / ベルギー / フランス	
45	45	ボブ・マーリー ラスト・ライブ・イン・ジャマイカ レゲエ・サンスブラッシュ デジタルリマスター		ドキュメンタリー	ステファン・ポール	西ドイツ / ジャマイカ	
46	46	ミッション・ジョイ ～困難な時に幸せを見出す方法～		ドキュメンタリー	ルイ・シホヨス	アメリカ	
47	47	燃えあがる女性記者たち	■	ドキュメンタリー	リントウ・トーマス / スシュミト・ゴージュ	インド	
48	48	古の王子と3つの花		アニメーション	ミッシェル・オスロ	フランス / ベルギー	
49	49	オオカミの家＋骨	■	アニメーション	クリストバル・レオン / ホアキン・コシーニャ	チリ	
50	50	ブチ・ニコラ バリがくれた幸せ		アニメーション	アマンディース・フルドン、バンジャマン・マスブル	フランス	
51	51	ベルリンブスと秘密の森	■	アニメーション	アレ・アブレウ	ブラジル	
52	52	オリガ・スミルノワのジゼル in cinema		ODS	ラシエル・ボージャン / リカルド・プスタマンテ	オランダ	
			18				
53	1	情熱の大河に消える		劇映画	エドゥアルド・ギジョッド	ベルー	ベルー映画祭 2023 vol.2
54	2	ある詩人への旅路		ドキュメンタリー	ハビエル・コルクエラ	ベルー / スペイン	
55	3	バモス・アヤクーチョ		ドキュメンタリー	山本学	ベルー / 日本	
56	4	レタブロ		劇映画	アルバロ・デルガド・アバシオ	ベルー	
57	5	クイーンに沸いた夜		ドキュメンタリー	アルベルト・カストロ・アンテサナ	ベルー	
58	6	旅するエリスバン		劇映画	ヘンリー・バジェホ・トルレス	ベルー	
59	7	母なる勇氣		劇映画	アルベルト・ドゥラント	ベルー	
60	8	ファルファン 路地裏からの栄光		ドキュメンタリー	マルティン・カサビア・カサノバ	ベルー	
61	9	アルバカと生きる喜び		ドキュメンタリー	ティト・カタコラ	ベルー	
62	10	サミチャイ、牛飼いの祈り		ドキュメンタリー	マウリオ・フランコ・トッソ	ベルー	
63	11	再会の肖像		ドキュメンタリー	ジュディス・ベレス・アガイン	ベルー	
64	12	天使の影		劇映画	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー	スイス	
65	13	不安は魂を食いつくす		劇映画	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー	ドイツ	
66	14	マリア・ブラウンの結婚		劇映画	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー	ドイツ	
67	15	ルナ・ノバ		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	ドイツ / オーストリア / 日本	
68	16	スーツ		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	ロシア / ウクライナ / ドイツ / フランス	
69	17	少年、機関車に乗る		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	タジキスタン / 旧ソ連	
70	18	海を待ちながら		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	ロシア / ベルギー / フランス / カザフスタン / ドイツ / タジキスタン	
71	19	コシュ・バ・コシュ 恋はローブウェイに乗って		劇映画	バフティヤル・フドイナザーロフ	タジキスタン / スイス / 日本	シャンタル・アケルマン映画祭 2023
72	20	私、あなた、彼、彼女 (デジタルリマスター版)		劇映画	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス	
73	21	ジャンヌ・ディエルマン プリュッセル 1080、コメルス河畔通り23番地 (デジタルリマスター版)		劇映画	シャンタル・アケルマン	ベルギー	
74	22	アンナの出会い (デジタルリマスター版)		劇映画	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス / ドイツ	
75	23	囚われの女		劇映画	シャンタル・アケルマン	フランス	
76	24	街をぶっ飛ばせ / 家からの手紙		ドキュメンタリー	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス	
77	25	一晩中		劇映画	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス	
78	26	オルメイヤーの阿房宮 (デジタルリマスター版)		劇映画	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス	
79	27	東から		ドキュメンタリー	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス	
80	28	ゴールデン・エイティーズ		劇映画	シャンタル・アケルマン	ベルギー / フランス / スイス	
81	29	シャーク・ド・フランス		劇映画	ルドヴィック・ブケルマ / ゴラン・ブケルマ	フランス	特集上映 歴史をみつめるソクーロフ
82	30	独裁者たちのとき		劇映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ベルギー / ロシア	
83	31	ロシアン・エレジー		ドキュメンタリー	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
84	32	ヒトラーのためのソナタ / ペテルブルク・エレジー		ドキュメンタリー	アレクサンドル・ソクーロフ	旧ソ連	

		上映作品名	欧米以外	創映画 / アニメ / ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名 / 備考
85	33	孤独な声		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	旧ソ連	特集上映 歴史をみつめるソクーロフ
86	34	ストーン〜クリミアの亡霊		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
87	35	セカンド・サークル		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
88	36	静かなる一頁		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア / ドイツ	
89	37	エルミターージュ幻想 デジタル・リマスター版		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア / ドイツ / 日本	
90	38	マザー、サン		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ドイツ / ロシア	
91	39	チェチェンへ アレクサンドラの旅		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア / フランス	ジョン・カサヴェテス レトロスペクティブリリース
92	40	太陽		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア / イタリア / フランス / スイス	
93	41	モレク神		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア / ドイツ / 日本 / イタリア / フランス	
94	42	牡牛座 レーニンの肖像		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア	
95	43	ファザー、サン		創映画	アレクサンドル・ソクーロフ	ロシア / ドイツ / フランス / イタリア / オランダ	
96	44	ラヴ・ストリームス		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
97	45	チャイニーズ・ブッキーを殺した男		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	ジョン・カサヴェテス×ジョナサン・デミ
98	46	アメリカの影		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
99	47	こわれゆく女		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
100	48	オープニング・ナイト		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
101	49	フェイス		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
102	50	グロリア		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	
103	51	ハズバンズ		創映画	ジョン・カサヴェテス	アメリカ	ピーター・グリーンナウェイ レトロスペクティブ
104	52	メルビンとハワード		創映画	ジョナサン・デミ	アメリカ	
105	53	ZOO		創映画	ピーター・グリーンナウェイ	イギリス	
106	54	プロスペローの本		創映画	ピーター・グリーンナウェイ	イギリス	
107	55	英国式庭園殺人事件 4Kリマスター		創映画	ピーター・グリーンナウェイ	イギリス	
108	56	数に溺れて 4Kリマスター		創映画	ピーター・グリーンナウェイ	イギリス	
109	57	アーカイブ・タイム		ドキュメンタリー	ルー・ユエンチー	台湾	台湾巨匠傑作選 2023
110	58	風櫃の少年		創映画	ホウ・シャオシェン	台湾	
111	59	大輪廻 [デジタル修復版]		創映画	キン・フー / リー・シン / パイ・シンシュイ	台湾	
112	60	童年往事 時の流れ		創映画	ホウ・シャオシェン	台湾	
113	61	空山雲雨 [デジタル修復版]		創映画	キン・フー	香港	
114	62	風が踊る [デジタルリマスター版]		創映画	ホウ・シャオシェン	台湾	
115	63	日常対話		創映画	ホアン・フイチェン	台湾	ジャン・ユスターシュ映画祭
116	64	わるい仲間 / サンタクロースの眼は青い		創映画	ジャン・ユスターシュ	フランス	
117	65	ぼくの小さな恋人たち		創映画	ジャン・ユスターシュ	フランス	
118	66	ママと娼婦		創映画	ジャン・ユスターシュ	フランス	
119	67	キングダムI		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
120	68	キングダムII		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
121	69	ボス・オブ・イット・オール [HDリマスター版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	ラース・フォン・トリアー レトロスペクティブ 2023
122	70	キングダム エクソダス(脱出)		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
123	71	ドッグヴィル [4K デジタル修復版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
124	72	ラース・フォン・トリアーの5つの挑戦 [HD リマスター版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
125	73	ダンサー・イン・ザ・ダーク [4K デジタル修復版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
126	74	ヨーロツバ [4K デジタル修復版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
127	75	奇跡の海 [4K デジタル修復版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	ウルリケ・オッティンガー ベルリン三部作
128	76	エビデミック〜伝染病		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
129	77	イデオッツ [4K デジタル修復版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
130	78	メランコリア		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
131	79	マンダレイ [HDリマスター版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
132	80	ノクターン / エLEMENT・オブ・クライム [4K デジタル修復版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
133	81	ニンフォマニアック Vol. 1 [ディレクターズカット完全版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	ウルリケ・オッティンガー ベルリン三部作
134	82	ニンフォマニアック Vol. 2 [ディレクターズカット完全版]		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
135	83	アンチクライスト		創映画	ラース・フォン・トリアー	デンマーク	
136	84	タブロイド紙が映したドリアン・グレイ		創映画	ウルリケ・オッティンガー	西ドイツ	
137	85	アル中女の肖像		創映画	ウルリケ・オッティンガー	西ドイツ	
138	86	フリーク・オルランド		創映画	ウルリケ・オッティンガー	西ドイツ	
139	87	あるじ		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	デンマーク	カール・テオドア・ドライヤー セレクション vol.2
140	88	ゲアトルーズ		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	デンマーク	
141	89	ミカエル		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	ドイツ	
142	90	奇跡		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	デンマーク	
143	91	吸血鬼		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	フランス / ドイツ	
144	92	裁かる>ジャンヌ		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	フランス	
145	93	怒りの日		創映画	カール・テオドア・ドライヤー	デンマーク	ベトナム映画祭 2023
146	94	ベトナムの風に吹かれて		創映画	大森一樹	日本	
147	95	海辺の彼女たち		創映画	藤元明緒	日本	



		上映作品名	欧米以外	劇映画 / アニメ / ドキュメンタリー	監督名	製作国	特集名 / 備考
148	96	パパとムスメの7日間		劇映画	落合賢	ベトナム	ベトナム映画祭2023
149	97	異国での生活から		劇映画	曾文珍(ツォン・ウェンチェン)	ベトナム	
150	98	第三夫人と髪飾り		劇映画	アッシュ・メイフェア	ベトナム	
151	99	ソン・ランの響き		劇映画	レオン・レ	ベトナム	
152	100	雲よりも高く		劇映画	ルーン・ディン・ズン	ベトナム	
153	101	走れ口ム		劇映画	チャン・タン・ファイ	ベトナム	
154	102	草原に黄色い花を見つける		劇映画	ヴィクター・ザー	ベトナム	
155	103	目を閉じれば夏が見える		劇映画	カオ・ティ・ニ	ベトナム	
156	104	ベトナムを懐く		劇映画	グエン・クアン・ズン	ベトナム	
157	105	漂うがごとく		劇映画	ブイ・タク・チュエン	ベトナム	
158	106	プシュバ 覚醒		劇映画	スクマール	インド	熱風!!南インド映画の世界
159	107	サイラー ナラシムハー・レッディ 偉大なる反逆者		劇映画	スレーンダル・レッディ	インド	
160	108	マガディール 勇者転生<完全版>		劇映画	S. S. ラージャマウリ	インド	
161	109	ヤマトンガ		劇映画	S. S. ラージャマウリ	インド	クレール・ドゥニ特集 予想不可能な世界へ
162	110	クレール・ドゥニ監督のマスタークラス					
163	111	ショコラ		劇映画	クレール・ドゥニ	フランス	
164	112	愛と激しさをもって		劇映画	クレール・ドゥニ	フランス	

上映活動レポート3:みやこ映画生活協同組合

調査対象期間:2023年1月～12月

上映団体。

1997年設立。同年に岩手県沿岸部で唯一の映画館「みやこシネマリーン」を開設。  
2011年3月11日以降、東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸部に映画を届ける活動を積極的に展開。上映者・観客のネットワークを広げてきた。2017年「みやこシネマリーン」は閉館。みやこ映画生協は、DORAホール(元「みやこシネマリーン」)で上映会を継続(年間150日程度)するとともに、岩手県内の映画館のない市町村での移動上映を年間50回以上実施している。2016年には有志とともに、宮古市内の蔵をリノベーションした上映の場「シネマ・デアエル」を開設。こちらでも毎月上映会が行われている。

主な上映会場:DORAホール(元映画館「みやこシネマリーン」) 76席  
岩手県宮古市小山田2-2-14 マリンコープDORA2F  
宮古市人口:約45,000人  
近隣の映画館:盛岡市(約120分)

みやこシネマリーン(DORAホール)での上映

	上映作品名	劇映画 / アニメ / ドキュメンタリー	監督名	製作国	備考
1	Dr.コトー診療所	劇映画	中江功	日本	
2	レジェンド&バタフライ	劇映画	大友啓史	日本	
3	こんにちは、母さん	劇映画	山田洋次	日本	
4	ミステリと言う勿れ	劇映画	松山博昭	日本	
1	銀河鉄道の父	劇映画	成島出	日本	
2	ゴジラ-1.0	劇映画	山崎貴	日本	
3	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら	劇映画	成田洋一	日本	
4	怪物	劇映画	是枝裕和	日本	
5	ある男	劇映画	石川慶	日本	
6	ミンナのウタ	劇映画	清水崇	日本	
7	福田村事件	劇映画	森達也	日本	
8	渇水	劇映画	高橋正弥	日本	
9	月	劇映画	石井裕也	日本	
10	さよならぼやマン	劇映画	庄司輝秋	日本	
11	釜石ラーメン物語	劇映画	今関あきよし	日本	
12	野火	劇映画	塚本晋也	日本	
13	ハマのドン	ドキュメンタリー	松原文枝	日本	
14	瀬戸内寂聴 99年生きて思うこと	ドキュメンタリー	中村裕	日本	
15	夢みる校長先生	ドキュメンタリー	オオタ ヴィン	日本	
16	沖縄うりすんの雨 改訂版	ドキュメンタリー	ジャン・ユンカーマン	日本	
17	蟻の兵隊	ドキュメンタリー	池谷薫	日本	

	上映作品名	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	備考
18	カメラを持った男たち 関東大震災を撮る	ドキュメンタリー	井上実	日本	
19	新根室プロレス物語	ドキュメンタリー	湊寛	日本	
20	君たちはどう生きるか	アニメーション	宮崎駿	日本	
21	SPY×FAMILY CODE:White	アニメーション	片桐崇	日本	
22	映画ドラえもん のび太と空の理想郷	アニメーション	堂山卓見	日本	
23	THE FIRST SLAM DUNK	アニメーション	井上雄彦	日本	
24	名探偵コナン 黒鉄の魚影	アニメーション	立川譲	日本	
25	クレヨンしんちゃん THE MOVIE 超能力大決戦	アニメーション	大根仁	日本	
26	映画プリキュアオールスターズF	アニメーション	田中裕太	日本	
27	窓ぎわのトットちゃん	アニメーション	八嶽新之介	日本	
28	鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎	アニメーション	古賀豪	日本	
29	すみっコぐらし 青い月夜のまほうのコ	アニメーション	大森貴弘	日本	
30	BLUE GIANT	アニメーション	立川譲	日本	
31	特別編 響け! ユーフォニアム アンサンブルコンテスト	アニメーション	石原立也	日本	
32	丘の上の本屋さん	劇映画	クラウドディオ・ロッシ・マッシミ	イタリア	
33	バリタクシー	劇映画	クリスチャン・カリオン	フランス	
34	RRR	劇映画	S・S・ラージャマウリ	インド	
35	ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	アニメーション	アーロン・ホーバス	アメリカ・日本	

### みやこシネマリーン(DORAホール)以外での上映活動

	上映作品名	劇映画/アニメ/ ドキュメンタリー	監督名	製作国	市町村	会場	ゲスト/備考
1	青い山脈	劇映画	今井正	日本	山田町	飯岡地区コミュニティセンター	岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
2	いつでも夢を	劇映画	野村孝	日本	宮古市	高浜地区センター	
3	いつでも夢を	劇映画	野村孝	日本	宮古市	重茂公民館	
4	いつでも夢を	劇映画	野村孝	日本	陸前高田市	小友地区コミュニティセンター	
5	いつでも夢を	劇映画	野村孝	日本	山田町	中央コミュニティセンター	
6	梅切らぬバカ	劇映画	和島香太郎	日本	宮古市	宮古市市民交流センター	
7	男はつらいよ 50 お帰り寅さん	劇映画	山田洋次	日本	野田村	新町地区コミュニティセンター	はあとふるフェスタ上映会 主催:NPO法人レインボーネット 岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
8	家族はつらいよ	劇映画	山田洋次	日本	陸前高田市	今泉地区コミュニティセンター	
9	家族はつらいよ	劇映画	山田洋次	日本	釜石市	平田公民館	
10	カメラを止めるな!	劇映画	上田慎一郎	日本	陸前高田市	ほんまるの家	キネマ ホンマル(上映ワークショップ)
11	キネマの神様	劇映画	山田洋次	日本	釜石市	青葉ビル	
12	銀座の恋の物語	劇映画	蔵原惟繕	日本	山田町	飯岡地区コミュニティセンター	岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
13	警察日記	劇映画	久松静児	日本	山田町	中央コミュニティセンター	
14	桜色の風が咲く	劇映画	松本准平	日本	釜石市	釜石PIT	CINEPIT 上映会
15	さよならほやマン	劇映画	庄司輝秋	日本	陸前高田市	アパッセ高田	キネマ ホンマル(上映ワークショップ)
16	大コメ騒動	劇映画	本木克英	日本	野田村	新町地区コミュニティセンター	岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
17	大コメ騒動	劇映画	本木克英	日本	宮古市	高浜地区センター	
18	大コメ騒動	劇映画	本木克英	日本	大槌町	沢山地区集会所	
19	小さいうち	劇映画	山田洋次	日本	大船渡市	森っこ洞川原集会所	海と希望の学園祭 主催:崎山公民館 キネマ ホンマル(上映ワークショップ) 「スケッチ・オブ・マーク」萬代館上映会 佐藤直志さん追悼上映会 岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
20	妻よ薔薇のように 家族はつらいよⅢ	劇映画	山田洋次	日本	陸前高田市	今泉地区コミュニティセンター	
21	遥かなる山の呼び声	劇映画	山田洋次	日本	大槌町	臼澤寺野ふれあい集会所	
22	遥かなる山の呼び声	劇映画	山田洋次	日本	陸前高田市	小友地区コミュニティセンター	
23	壬生義士伝	劇映画	滝田洋二郎	日本	釜石市	釜石市青葉ビル	
24	息子	劇映画	山田洋次	日本	大船渡市	森っこ洞川原集会所	
25	息子	劇映画	山田洋次	日本	大槌町	臼澤寺野ふれあい集会所	
26	息子	劇映画	山田洋次	日本	大船渡市	にこにんプラザ	
27	くじらびと	ドキュメンタリー	石川梵	日本	釜石市	釜石PIT	海と希望の学園祭 主催:崎山公民館
28	縄文にハマる人々	ドキュメンタリー	山岡信貴	日本	宮古市	崎山公民館	
29	人生フルーツ	ドキュメンタリー	伏原健之	日本	陸前高田市	ほんまるの家	キネマ ホンマル(上映ワークショップ) 「スケッチ・オブ・マーク」萬代館上映会
30	スケッチ・オブ・マーク	ドキュメンタリー	大西功一	日本	一戸町	萬代館	
31	先祖になる	ドキュメンタリー	池谷薫	日本	陸前高田市	陸前高田市コミュニティホール	佐藤直志さん追悼上映会
32	タイムグラバあちゃん	ドキュメンタリー	澄川嘉彦	日本	久慈市	夏井地区センター	岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
33	タイムグラバあちゃん	ドキュメンタリー	澄川嘉彦	日本	釜石市	平田公民館	
34	タイムグラバあちゃん	ドキュメンタリー	澄川嘉彦	日本	宮古市	重茂公民館	
35	ただいま、つなかん	ドキュメンタリー	風間研一	日本	久慈市	久慈市文化会館	

	上映作品名	劇映画／アニメ／ドキュメンタリー	監督名	製作国	市町村	会場	ゲスト／備考
36	津軽のカマリ	ドキュメンタリー	大西功一	日本	一戸町	萬代館	ゲスト:監督／二代目高橋竹山(津軽三味線)
37	廻り神楽	ドキュメンタリー	遠藤協／大澤未来	日本	野田村	泉沢地区コミュニティセンター	岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
38	廻り神楽	ドキュメンタリー	遠藤協／大澤未来	日本	釜石市	荒川集会所	
39	廻り神楽	ドキュメンタリー	遠藤協／大澤未来	日本	大槌町	沢山地区集会所	
40	水になった村	ドキュメンタリー	大西暢夫	日本	大船渡市	にこにんプラザ	
41	水になった村	ドキュメンタリー	大西暢夫	日本	釜石市	荒川集会所	岩手県「被災者の参画による心の復興事業」 みんなでつくる交流映画会
42	山懐に抱かれて	ドキュメンタリー	遠藤隆	日本	陸前高田市	泉沢地区コミュニティセンター	
43	山懐に抱かれて	ドキュメンタリー	遠藤隆	日本	久慈市	夏井地区センター	
44	山懐に抱かれて	ドキュメンタリー	遠藤隆	日本	洋野町	善映館	
45	夢みる小学校	ドキュメンタリー	オオタヴィン	日本	岩泉町	岩泉町民会館	上映者育成ワークショップ「みんなの上映会をつくろう」②
46	THE FIRST SLAM DUNK	アニメーション	井上雄彦	日本	釜石市	釜石 PIT	主催:おじゃんこの会
47	岬のマヨイガ	アニメーション	川面真也	日本	釜石市	唐丹学童クラブ	CINEPIT上映会
48	岬のマヨイガ	アニメーション	川面真也	日本	大船渡市	盛小学童クラブ	ゲスト:千葉遥香(防災士) 子どもたちに映画お届け隊 防災+映画上映会
49	地球交響曲ガイアシンフォニー第九番	ドキュメンタリー	龍村仁	日本	釜石市	釜石 PIT	CINEPIT上映会イベント
50	大河への道	劇映画	中西健二	日本	釜石市	釜石 PIT	
51	こんにちは、母さん	劇映画	山田洋次	日本	釜石市	釜石 PIT	
52	ヴァイオレットエヴァーガーデン	アニメーション	石立太一	日本	釜石市	釜石 PIT	
53	福田村事件	劇映画	森達也	日本	釜石市	釜石 PIT	CINEPIT上映会
54	THE BEATLES EIGHT DAY A WEEK	ドキュメンタリー	ロン・ハワード	イギリス	釜石市	釜石 PIT	
55	ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー	アニメーション	アーロン・ホーバス	アメリカ	陸前高田市	ほんまるの家	
56	シング:ネクストステージ	アニメーション	ガース・ジェニングス	アメリカ	釜石市	釜石市市民ホール (釜石 TETTO)	
57	パウ・バトロール ザ・マイティ・ムービー	アニメーション	カル・ブランカー	アメリカ	釜石市	釜石 PIT	CINEPIT上映会
58	シング	アニメーション	ガース・ジェニングス	アメリカ	大槌町	つつみ子ども園	
59	グリーンブック	劇映画	ピーター・ファレリー	アメリカ	岩泉町	岩泉町民会館	
60	世界の果ての通学路	ドキュメンタリー	パスカル・ブリッソン	フランス	岩泉町	岩泉中学校	

## (2) レポートを読み解く指標

3つの映画館(上映団体)の1年間の上映活動の記録をどのように読み解くことができるか。

この調査では、期間を限定して行われるイベントではなく、映画館等で恒常的・日常的に行われる活動をどう評価するかを考え、公共的な意義を明らかにすることで、公的な上映支援制度へとつなげる可能性を探りたい。

評価の指標として考えられるものとして、まず、第一に上映している作品の「多様性」がある。もうひとつは、地域文化を育み、学びの空間たりうるという意味での「地域性」という観点から、映画館の活動を評価する指標を設定する。

### 上映作品の多様性

「上映作品の多様性」は、映画館の基本的・根源的な活動である「上映」そのものを評価する指標であり、各館の上映作品リストを元に、上映作品数や作品の国籍やジャンルの豊かさを評価するものである。映画館は観客を動員し、興行収入を得ることで運営されているが、ここでは、年間1300本を超える膨大な数の公開作品の中から、必ずしも経済的な効率だけを優先することなく、多様な作品を上映し、観客に届けるということを評価の指標とする。

### 上映活動の地域性(教育的・社会的機能)

「地域性」とは、映画館が活動する地域において、その営みが(1)映画館の周辺に暮らす人々の文化に対するアクセシビリティを確保し、どれだけ「教育的な側面」を持つか、(2)地域における多様な観客のアクセシビリティを保証することにより、様々なグループやコミュニティの結節点としてどれほど「社会的な機能」を有しているかを測定するもので、上映に関わるイベントを評価する指標として設定した。

こうした教育的・社会的な活動は、あくまでも映画上映に付随したものであると捉え、上映作品の多様性により比重を置くことが妥当と考えられる。

#### ① 上映作品の多様性

##### 事例：シネマテークたかさき (74P参照)

- 2スクリーンで多くの作品を上映(年間280本)。
- 公開規模 30～79館の作品が半数近くを占める。  
市内唯一のミニシアターであり、ミニシアター作品では比較的大きな作品を満遍なくキャッチアップしている。
- 日本映画…99本上映
  - ・若手クリエイターの作品を多数上映…99本中半数近くの43本が若い映画監督の作品。
  - ・高崎映画祭(「監督たちの現在」上映作品、新進監督グランプリ)との連動。
  - ・たかさきコミュニティシネマが運営する映画館「高崎電気館」で旧作の特集上映を実施。
  - ・ドキュメンタリー 19本上映。
- 外国映画…180本上映
  - ・欧米以外の多様な国々の映画を上映 特集以外の114本中28本が該当。
  - ・重要な11の特集(計66本)を上映。

##### 事例：横浜シネマリン (79P参照)

- 1スクリーンで多くの作品を上映(年間300本以上)。
- 市内には4館のミニシアター (+10のシネコン、2つの既存館)があり館独自のプログラミングが求められる。
- 日本映画…139本上映
  - ・多彩な特集上映 139本中76本が特集・イベント上映
- 独自企画
  - 「映画監督 若松孝二」43本
  - 「「戦争と平和」宝田明さん～魂のメッセージ～」6本
  - 「藤竜也傑作選」11本

戦争・平和、社会的テーマにこだわった企画
・多くのドキュメンタリーを上映 特集を除く63本中25本が該当。
●外国映画…164本上映
・多彩な特集上映 「ハルー映画祭」11本「ベトナム映画祭」12本等、計112本(16特集)。
・欧米以外の多様な国々の映画を上映 特集以外の52本中18本が該当。

事例:みやこ映画生協 (84P参照)
●映画館のない町の上映団体
盛岡市の映画館まで2時間以上 周辺市町村(久慈市、釜石市、山田町等)にも映画館はない。
●元映画館「みやこシネマリン」(借用)での上映
・年間150〜200日程度／約35本／年間観客数約6400人
・ファミリー層向けのアニメーション、大作劇映画を中心に公開から数ヶ月遅れで上映。
●「映画館以外」での上映活動
・年間60回以上の移動上映／観客数のべ2500人
・会場…公共文化施設、公民館、元映画館、学校等
・主催(共催)団体・自治体、地域のNPO、文化施設、上映実行委員会等々
・上映作品…
高齢者層のニーズに応える日本映画の旧作・人気作
家族で楽しめるアニメーション
地域に関連するドキュメンタリー・劇映画等

①-1 上映作品の「公開規模」を指標に設定する

2024年に公開された映画は1315本。これを公開された映画館の館数(公開規模)で分類したものが表1である。概して述べれば、公開館数が多い=全国どここの映画館でも上映されている=集客が期待できる大きな映画と捉えることができる。

「上映作品の多様性」の指標として、それほど大きな規模では公開されていない作品(10〜99館程度で公開される中小規模の作品)が、各館の上映作品全体に占める割合を設定する。日本映画の場合、10〜99館で公開される作品は276本で全公開作品の46%、外国映画では447本で63%を占める。この中には、国際映画祭等で高い評価を得た作品や、世界的巨匠の作品、重要なドキュメンタリー映画、多くの若い作り手たちの野心的な作品、旧作のデジタルリマスター版のリバイバル上映や監督の特集上映などが含まれている。→表1

公開館数が10〜99館の作品が上映作品全体に占める割合をポイント化

81%以上=50点／71〜80%=45点／61〜70%=40点／51〜60%=35点／41〜50%=30点／31〜40%=25点／30%以下=20 とすると、3つの映画館(上映活動)のポイントは表2の通り、シネマテークたかさきは50点、横浜シネマリンは32.5点、みやこ映画生協は25点となる。同じミニシアターであっても、館が立地する地域の人口規模や周辺の映画館のあり方などで大きな違いがあることがわかる。ただし、これはひとつの指標から得られたポイントであり、これだけで多様性を評価することはできない。→表2

①-2 「上映活動の多様性」追加指標

「公開規模」のみでは上映作品の細やかな豊かさを計測するには十分ではない。国内の映画上映の現状を鑑みて、加点すべきより具体的な指標として以下のことが考えられる。

各々の映画館の特色や傾向をより詳細に読み解き、こうした評価を加えることで、多様性の評価はより妥当なものとなるだろう。

■若手クリエイター作品の上映に対する加点

若手クリエイターがそのキャリアをスタートし、経験を積み重ねる場としての映画館の役割を評価の指標とする。日本においては、製作予算が大きく、公開規模の大きな映画作品を彼らが初めから手



表1 2024年に映画館で公開された作品の公開規模

日本映画					
公開館数	2024		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ
300館以上	67	11%	59	8	0
150～299館	50	8%	23	27	0
100～149館	41	7%	14	27	0
70～99館	46	8%	18	28	0
50～69館	48	8%	11	37	0
30～49館	65	11%	23	29	13
10～29館	117	19%	11	43	63
2～9館	170	28%	13	28	129
日本映画公開本数	604	100%	172	227	205
			28%	38%	34%
外国映画					
公開館数	2024		シネコンのみ	シネコン+ミニシアター	ミニシアターのみ
300館以上	34	5%	31	3	0
150～299館	39	5%	26	13	0
100～149館	33	5%	7	26	0
70～99館	45	6%	8	37	0
50～69館	84	12%	7	75	2
30～49館	112	16%	1	83	28
10～29館	206	29%	10	90	106
2～9館	158	22%	2	16	140
外国日本映画公開本数	711	100%	92	343	276
			13%	48%	39%
日本映画+外国映画	1315		264	570	481
			20%	43%	37%
	本数	割合			
日本映画10～99館	276	46%			
外国映画10～99館	447	63%			

表2 公開館数が10～99館の作品が上映作品全体に占める割合をポイント化

	シネマテークたかさき				横浜シネマリン				みやこ映画生協			
	日本映画		外国映画		日本映画		外国映画		日本映画		外国映画	
300館以上	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	17	45%	1	25%
150～299	2	2%	0	0%	2	1%	0	0%	6	16%	1	25%
100～149	1	1%	0	0%	1	1%	1	0%	1	3%	0	0%
80～99	1	1%	6	3%	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%
50～79	21	22%	31	17%	8	6%	11	7%	3	8%	2	50%
30～49	20	21%	53	29%	10	7%	28	17%	4	11%	0	0%
10～29	36	37%	68	38%	22	16%	69	42%	7	18%	0	0%
7～9	5	5%	1	1%	12	9%	1	1%	0	0%	0	0%
6以下	11	11%	21	12%	83	60%	52	32%	0	0%	0	0%
	97		180		139		163		38		4	100%
10～99館	83	86%	159	88%	53	38%	110	67%	14	37%	—	—
	50		50		25		40		25		—	—
平均	50				32.5				25			

\*みやこ映画生協の外国映画は上映本数が少ないのでポイント化しない。

がける機会は極めて限られている。

シネマテークたかさきの上映作品リストには若手監督や新人監督の作品が多く含まれており(43本/43%)、映画館がクリエイターを育成する場としての役割を果たしているといえる。

■ドキュメンタリー映画の上映に対する加点

ドキュメンタリー映画は、製作本数に比して映画館における上映は少なく、シネマコンプレックスで上映されることは非常に限られている。上映の機会が稀少であること、そして描く対象やテーマによって、より直接的に私たちの社会や他者との関係を観客に伝え、考察する機会を与えるという点において、ドキュメンタリー映画の上映本数を評価の指標とすることができる。

横浜シネマリンでは、政治的・社会的なテーマを掲げた特集上映に加えて、現代の日本社会の課題を提起するドキュメンタリー作品の新作が多く上映され、特集も組まれている。

みやこ映画生協では、東北地方が舞台となった劇映画だけでなく、地域文化に関する民俗学的なドキュメンタリー作品も上映している。

■多様な製作国(籍)の映画の上映に対する加点

日本の映画市場は、諸外国と比較をした場合、ハリウッドに代表されるアメリカ映画に極端に偏らず、様々な国の映画を上映してきた。近年、若年層の外国語離れ・外国文化への関心の低さを指摘す

る声もあるが、映画を通じて異文化に対する関心や交流の場を広げるという点で、アジア、アフリカ、中南米といった多様な国々で製作された映画の上映を加点すべき指標とする。

## ■特集上映

ある時代や地域に絞って複数の作品を上映することにより、観客は作品や特集の掲げるテーマをより深く理解し、描かれた文化や社会を学ぶことができる。映画監督をはじめとする映画の作り手にフォーカスした特集は、まとめて作品を鑑賞することによってそのスタイルや制作へ至った背景、映画の歴史そのものを観客が理解しやすいという点で教育的な側面をも有しており、映画の作り手の育成にもつながる。また、映画館の独自性や特色が強く打ち出されるという点においても上映活動の多様性を評価する指標となる。

シネマテークたかさきでは外国映画で11の特集を上映、横浜シネマリンは日本映画で7企画、外国映画では「ペルー映画祭」「ベトナム映画祭」を含む16もの特集を上映している。また同館は「映画監督若松孝二」「戦争と平和～宝田明の証言」といった独自の特集を組んでいる点も重要である。シネマテークたかさきは、運営する同一法人が高崎電気館の番組も編成しており、こちらで旧作を中心とする様々な特集上映が実施されている。

こうした特集上映が東京都内だけでなく、巡回の形式を取るなどしながら各地域で行われることが増えていることは、国内における地域的な文化格差を是正することにも繋がっている。

## ② 関連イベント—地域性に即した上映活動の教育的・社会的意義

映画上映における関連イベントとは、映画上映の本質的な目的である映画作品の鑑賞に加えて、その体験をより充実したものにするために企画されるものである。

関連イベントの評価の指標としては、大きく分けて二つを挙げることができる。

ひとつは映画を通じて観客が学ぶ、様々な経験をするという点で「教育的な意義」が挙げられる。ゲストによるトークやレクチャーは、観客の作品自体に対する理解だけでなく、作品の描く文化や社会についての関心を深める。より専門的なマスタークラスやシンポジウムは、映画のクリエイターや研究者が交流する機会を提供することにもなるだろう。若い観客(子ども)のための教育プログラムとして、こども映画祭や子ども向けのプログラムの上映に合わせて体験型のワークショップや映画の解説、トークイベントなどを実施することには教育的な意義とともに、社会的な意義も含まれる。また、ミニコンサートや公演付の上映は、音楽などの芸術全般や他のメディアへ映画の裾野を広げ、日常的に映画館へ足を運ぶことの少ない観客層の開発・育成に繋がる。

関連イベントには、「社会的な意義」も含まれる。それは、映画館が文化的な拠点として、地域社会のなかで様々な人々や団体との結節点となる役割を果たすことを示す。映画上映を通じて人々が集まり言葉を交わすことは、作品の芸術的な価値だけでなく、映画を契機としたコミュニティが醸成されるという点においても評価することができる。それは、結果的に映画館へ観客が根付くという循環を築くことにもなるだろう。

※映画公開時の舞台挨拶のように実施時間の極端に短いものやファンイベント、営利目的に限定されるものは教育的・社会的活動としての評価は低いものとなる。

## ②-1 教育的な意義

- ・上映作品関係者によるトークイベント
- ・レクチャー・マスタークラス・シンポジウム
- ・サイレント映画の伴奏付上映
- ・上映作品関連ミニコンサート等公演付上映
- ・上映ワークショップ・若年層向けプログラム(夏休みの映画館)

## 事例:シネマテークたかさき

- 上映した日本映画の約8割で監督や関係者を招いて舞台挨拶・トークイベントを実施
  - 1作品につき2〜3回、ゲストを変えて実施することもある。
- 特集上映の際に映画研究者等の解説・レクチャー
  - ・「ピエール・エテックス レトロスペクティブ」
  - ・「ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー傑作選」
- 若年層(子ども)を対象とした「夏休みの映画館」
  - ・夏休み期間中2週間にわたって実施。
  - 7プログラムの上映に加え、映写室見学・工作ワークショップ・アフタートーク等を実施。
  - 他のミニシアターと連携して企画運営。
  - 鑑賞ノートの配布。
- 高崎映画祭の開催(主催:高崎映画祭実行委員会)
- 東南アジア映画祭の開催(主催:高崎市)
- 周辺の映画館のない市町村での移動上映。



## 事例:横浜シネマリン

- 日本映画の上映の際に監督や出演者、関係者を招いて舞台挨拶・トークを実施。
  - 東京に近いこともあり、1作品で複数回行うことも多く、年間140回以上実施、ゲストの数は300人を越える。
- 「特集」上映の際には複数のゲストによるトークやレクチャーを実施。
  - ・「戦争と平和」宝田明さん〜魂のメッセージ〜
  - ・「映画監督 若松孝二」
  - ・「ベトナム映画祭」
  - ・「ペルー映画祭」等々
- 来日した監督によるマスタークラス
  - 「クレール・ドゥニ特集 予想不可能な世界へ」(アンスティチュフランセ日本との共催)
- サイレント映画の伴奏付上映の定期開催
  - ・柳下美恵のピアノdeフィルム vol.9〜11
  - 『不壊の真珠』『セルギー神父』『限りなき舗道』
  - 『裁かるるジャンヌ』(特集上映関連)
- 公演付上映
  - ・『絶唱浪曲ストーリー』浪曲口演 ほか
- ミニシアター地域交流会



②-2 社会的な意義

- ・地域の文化施設・文化芸術団体との協働・学校との協働
- ・商店街等との共同
- ・映画館がない地域での移動上映
- ・バリアフリーの取組 等

事例：みやこ映画生協 表3参照

みやこ映画生協の「みやこシネマリーン(DORAホール)以外での上映活動」はすべて「社会的・地域的な意義」のある活動に該当する。

これらの活動すべてが「映画館のない地域での移動上映」であり、地域の文化施設や芸術団体、学校等との共同で行われている。

陸前高田市の「ほんまるの家」や、洋野町「善映館」では地域の人たち自身が上映会を企画・運営する上映者育成ワークショップも実施。

表3 みやこ映画生協 映画館以外での上映時の関連イベント例

	上映作品	イベントの名称	日程	実施会場	ゲスト	観客数	概要	その他(備考)
1	釜石ラーメン物語	『釜石ラーメン物語』 今関あきよし監督トーク	2023/4/8	DORAホール	今関あきよし監督	50	約30分間、被災地や作品への想いについて お話を聞くことができた。	
2	先祖になる	佐藤直志さん追悼上映会	2023/3/10	陸前高田市コミュニ ティホール	池谷薫監督と 作品出演者	330	ドキュメンタリーの主人公の佐藤さん(陸前高田 市)が亡くなり追悼上映を企画開催。県内外、 遠方からも多くの方々が集まった。	主催：上映実行委員会
3	シング/岬のマヨイガ	子どもたちに映画お届け隊 防災+映画上映会	2023/12/26～ 28	子ども園、学童クラブ	千葉遥香(防災士)	114	冬休みの子ども向けに防災+映画の企画上映 会を行い、上映前には防災士による子ども防 災教室を行った。	主催： 子どもたちに映画お届け隊 いわて生協助成
4	グリーンブック/ 山懐に抱かれて	みんなの上映会をつくろう (上映者育成ワークショップ)	2023/10/6～ 3/3	宮古市、洋野町、 岩泉町	遠藤隆監督	69	上映会の方法をレクチャーし、受講生がみん なで作品を選び、実際に上映会を開催してみ るプログラムを2回行った。	岩手県復興くらし再建課 「被災者の参画による心の 復興事業」補助金
5	梅切らぬバカ	はあとふるフェスタ上映会	2023/11/23	宮古市 市民交流 センター		111	福祉イベントに合わせた上映会	主催： NPO法人レインボーネット
6	津軽のカマリ	「津軽のカマリ」上映と二代目高 橋竹山津軽三味線演奏会	2023/4/19	萬代館(一戸町)	大西功一監督 高橋竹山(三味線)	70	旧映画館萬代館は一戸町が取得、現在は萬 代館利活用事業実行委員会が管理。上映後 には監督のトーク、出演の二代目高橋竹山さん を招き津軽三味線のライブを行った。	主催： 萬代館映画上映実行委員会
7	夢みる小学校	『夢みる小学校』上映会	2023/6/17	岩泉町町民会館 大ホール		29		主催：おじゃんこの会
8	桜色の風が咲く/ THE FIRST SLAM DUNK 他	CINEPIT	2023/7/17～ 2024/3/17	釜石 PIT		248	CINEPITは映画館の無い釜石市で釜石 PIT を利用した定期映画上映会。12月は2日間連 続で6作品の上映イベントを実施	主催：CINEPIT運営委員会 (釜石まちづくり株式会社、 みやこ映画生協)
9	ただいま、つなかん	「ただいま、つなかん」 久慈上映会	2023/8/27	久慈市文化会館 アンバーホール	風間研一監督 菅野一代(出演)	374	主人公の菅野一代さんが久慈市出身というこ とで、ゲストトークは盛り上がった。久慈市から も全面協力いただいた。	主催：「ただいま、つなかん」 久慈上映実行委員会、 共催：久慈市
10	シング:ネクストステー ジ	釜石インクルーシブ上映会	2023/9/3	釜石 TETTO		50	小さい子ども楽しめるように配慮した上映会	主催：釜石市民ホール
11	くじらびと	海と希望の学園祭	2023/11/18	釜石 PIT	北川貴士(東京大学大 学院新領域創成科学研 究科 教授)	40	海をテーマにしたドキュメンタリー映画鑑賞と、 レクチャー&参加者との感想共有	主催：釜石市
12	スケッチ・オブ・マーク	「スケッチ・オブ・マーク」萬代館 上映会	2023/9/18	一戸町 萬代館	大西功一監督	25	上映後、大西監督のトーク	主催：日昇軒
13	人生フルーツ/ カメラをとめるな! 他	キネマ ホンマル	2023/12/22～ 2024/2/24	ほんまるの家、 アパッセ高田	庄司輝秋監督	144	住民参加のワークショップを行い、作品選定や 上映企画を行った。「さよならほやマン」上映 では庄司監督のトークを行い作品をより深めら れた。	主催：ほんまるの家株式会社 陸前高田市中心の復興事業
14	世界の果ての通学路	岩泉中学校文化鑑賞	2023/11/11	岩泉中学校		100	学校での映画を使った文化鑑賞事業	主催：岩泉中学校

### ③さらに必要な指標・データ

今回の調査では、映画館の活動を年間の上映作品リストに基づき、その多様性を評価すると同時に、関連イベントをみることによって地域社会への貢献度を社会的・教育的な意義の視点から評価できることを提示した。そのために用いた特定の指標を継続的に測定し、アプローチ自体の改善を繰り返していくことが重要である。また、映画館の実態に即したよりきめ細やかな調査を行うために必要な指標、データとして、以下のものが挙げられる。

#### ■地域の人口規模等

映画館の活動はその地域の人口によって大きく左右される。100万人以上の大都市と5万人以下の小市町村の上映作品の多様性を同じ基準で評価することはできない。人口規模、あるいは映画館の所在地の商圈や交通手段を考慮したアクセシビリティなどを評価点数に反映する必要がある。例えば、100万人規模の都市の映画館を1とした場合、50万人=1.1、30万人=1.2、10万人以下=1.4といった係数をポイントにかけることなどが考えられる。

#### ■観客開拓

観客開拓の取り組み等により、観客数(座席占有率)が増加していることを評価することも重要である。上映プログラムや関連イベントの効果的な告知、SNSや会報(会員制メールマガジン)の活用などによる観客の増加を評価の対象とすることは、観客開拓の取り組みを促すことに繋がるだろう。

#### ■年齢別観客数に関するデータ

若い観客を開発・育成することは映画館や映画文化を維持・発展していくために重要である。そのために、これまで詳細なデータのない年齢別の観客数を整理して、各映画館に集う人々の傾向を把握する必要がある。学校や学童保育など教育機関との連携など若年層の観客開拓に対して評価することも考えられる。

#### ■大都市のミニシアター

ミニシアターが多く存在する東京のような大都市については、鑑賞する作品の選択肢がきわめて多いため、観客にとって「多様性」のあり方が他の都市とは大きく異なっている。人口規模だけでなく、他館との関係、配給のあり方も特殊であり、映画館の上映作品の多様性の評価については、他の地域とは別の基準を設けることを検討する必要があるかもしれない。

今回の調査では、4つの映画館及び上映団体から上映活動に関する詳細なデータを提供していただくことができた。調査に協力していただいた方々には心よりお礼を申し上げたい。

このように調査から得られたデータを、様々な指標を用いることによつて的確に読み取ることで、映画館・上映活動の実像を明示することが可能となる。さらに、調査を積み重ね、客観的で説得力があり、データを提供した上映団体にとっても納得のいく評価の方法を確立していくことが重要である。

#### (2) 資料・原稿作成

岩崎ゆう子(コミュニティシネマセンター) / 土田環(早稲田大学/コミュニティシネマセンター理事)



## Ⅲ | 〔特集〕映画館（上映活動）の現状に関する詳細調査

3

## 課題と展望

とちぎあきら | フィルム・アーキビスト/コミュニティシネマセンター理事

映画館とは、とても親切的な商売である。劇場のスクリーンに映像を投影し、その体験を観客にサービスとして提供することを旨とするビジネスであるが、多くの劇場は年中無休で営業しているし、開館時間も朝早くから夜遅くまでと長い。概して同じ作品を何度も繰り返し上映しているので、都合のよい日時を選んで行けばいいし、予約せずに思い立って出かけても、大抵は見ることができる。しかも、作品は日本映画、外国映画を問わず、ジャンルも多種多様、入場料もせいぜいちょっとした外食1回分くらいで済む。

文化・芸術としての表現の美しさや情感の豊かさに身近に触れることができ、人生観や世界観を学ぶ時間ともなり、生きる喜びと幸せをもたらしてくれる。美術館や博物館も展示施設として同じような役割を果たしているが、概ね閉館時刻は早いし、休館期間も結構長い。音楽や演劇などの実演芸術では、公演期間が長いものもあるが、多くは一回だけだから、その日その場所を逃したら、二度と体験できない。それらに比べると、映画館はなんて顧客に優しいビジネスなんだろうと、感嘆せざるを得ない。

このビジネスモデルは、映画産業の垂直的な支配による興行のブロックブッキング制が崩壊した後、シネマコンプレックスとミニシアターという両極の興行形態を生み出すことによって、実質的に継承されてきたわけだが、そこで提供される映像の姿は今世紀になって大きく変貌した。ベルトコンベヤーの如くシネコンへ運ばれてくる作品の中心はアニメとODSで、実写映画はまるで添え物のように見える。それに応じて、観客の志向も少数のヒット作か、ターゲットが極端に限られた作品に分裂し、もっぱら後者に属する膨大な数の映画群を引き受けているのがミニシアターである。だが、この二極化することで成り立ってきたビジネスモデルも、もはや瀬戸際に来ているのかもしれない。

本調査は、映画館などから直接提供された1年間の上映作品リストと、上映関連イベントなどの事業に関する詳細なレポートから成る貴重なデータを基に、映画館の日常活動への評価・分析を試みたものである。興行側の腰の低さゆえか、観客側の無関心ゆえか、はたまた行政や研究者の怠慢ゆえか、生業としての映画館の実態を実証的に測定するような調査は、これまで行われてこなかった。『映画上映活動年鑑』においても初の試みとなる今回の調査では、サンプル数は3件と少ないが、映画祭が母体となって生まれたミニシアターで、映画館経営に加え、フィルムコミッションや移動上映を行っている団体、前身の映画館を受け継いだミニシアター、映画館閉館後のホールを拠点に移動上映を行っている団体と、来歴や活動内容に大きな違いはあるものの、それぞれ地域に深く根づいた上映活動を行っている団体からのデータである。このリストやレポートに記載された驚くべき多様な上映作品と多彩なイベントの数々から、映画館とは毎日どのようなことをやることで観客との関係を結んでいるところなのかを、具体

的に知ることができるのである。

その内容は、年間の上映作品リストに基づく多様性の評価と、特集上映や関連イベントなどから見た地域における芸術文化の振興や人材育成へのポテンシャルという社会的・教育的意義に基づく地域性への評価、という二つの方向からさまざまな指標を設定し、ポイントによる量的評価と指標ごとの質的評価を組み合わせることで、客観的な判断材料とするものである。点数を付けるといっても、これは決して映画館の優劣を測るための調査ではない。むしろ、上映作品の多様性の実態を数字にして表すことにより、映画館がそれぞれの地域の事情や観客の志向に応じた独自性を発揮し、地域間における文化格差の是正を図ることに貢献しているという公共的性格を可視化させることになるのである。

とはいえ、スタートしたばかりの調査ゆえ、まだまだ課題は多い。もとより、この調査は上映作品の多様性や関連事業の社会的・教育的意義を反映した指標を基に、映画館やシネマテークなど日常的に上映活動を行っている組織や団体への公的支援の可能性を検討するための基礎データにすることにある。その意味で、今後とも関係者各位より本調査への理解と協力をいただくことにより、サンプル数を増やしていくことが、まずは望まれる。

また、評価の指標となる項目についても、さらなる検討が必要だ。上映活動の多様性を測る指標として、映画作品を全国での公開館数により大別し、それらが年間の総上映本数に占める割合に応じてポイントを付与しているが、総数の多寡によって数字は大きく変動してしまう。また、地域に根ざした上映活動に着目するうえで、年齢層など観客の実態把握は欠かせないし、映画館による集客への努力も考慮したい。映画館が立地する市町村の人口規模を調整値として勘案することも提案されているが、精度の高い係数の設定が求められる。

そして、何よりも、本調査を単年度で終わらせることなく、継続していくことが重要である。映画館での上映作品は、当然ながら製作・配給側の動きに大きく左右されるし、近隣の映画館や自主上映などの動向にも強く影響を受ける。そのため、どの映画館一つ取っても、経営者の交代や上映方針の変更、ひいては休館・閉館・廃業などの事態に陥るリスクは避けられない。これとは対照的な現状として、新たに小規模な映画館や定期上映の場を作る動きもあるため、継続的に定点観測を続けていく必要がある。また、映画館が一義的には映画を観るための場所であることに変わりはないとしても、地域社会や観客が映画館に求める価値や付加価値には変化の可能性があることから、活動を評価するための指標も、常に再検討が求められる。そして、映画館の側から見ても、他の地域の映画館の活動実態を客観的に眺めることにより、本調査が各映画館による多様で独自性のある活動をさらに推し進めていくための後押しになることが望まれていると言えよう。

今後、映画館のビジネスモデルがどのように変貌しようとも、その場での映像体験が観客にとってかけがえのない心の糧となり、新たな創造へのインスピレーションを与えてくれる、真に「顧客に優しい商売」であり続けるために、どのような支援の方策があり得るのか、本調査がその答えを導くための設計図として機能していくことを期待したい。

## Ⅲ | [特集] 映画館(上映活動)の現状に関する詳細調査

## 資料 全国コミュニティシネマ会議2024

## 採録: ディスカッション

“学びの場”としての映画館Ⅱ：  
映画館が「クリエイター」を育成する

## イントロダクション

## とちぎあきら(司会):

まず、きょうのディスカッションの主旨を説明させていただきます。  
ミニシアターを主とする“コミュニティシネマ”と呼ばれる地域に根ざした映画館や上映活動は、多くの様々な映画を届けることによって、その地域に住む人たちが多様性豊かな文化や芸術に親しむ機会をつくっています。しかし、ミニシアターは非常に小さいビジネスであり、自助だけで継続的に事業運営するのは難しい。コミュニティシネマセンターの活動はある種の共助の仕組みでもあるわけですが、それだけでもまだ安定的に運営していくことが難しい。そこで、全国コミュニティシネマ会議では、公的な資金など何らかの財源を求めるため、コミュニティシネマにはどのような価値があるのかを提示し、具体的な支援策の提案を行い、頻繁に議論を行ってきました。しかし、これまで実現に至る突破口を見出すことはできませんでした。

## 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」

現在、首相が議長を務める「新しい資本主義実現会議」が、内閣府が取りまとめ役になって進められています。ここでは、映画を含めたコンテンツ産業を重要な産業として位置づけ、これをどのように活性化させていくのかということも議論されており、2024年4月に開催された同

## 登壇者

佐々木伸一[全国興行生活衛生同業組合(全興連)会長/佐々木興業株式会社会長]  
志尾陸子[コミュニティシネマセンター代表理事/NPO法人たかさきコミュニティシネマ代表]  
岨手由貴子[映画監督/action4cinema]  
林健太郎[株式会社U-NEXT映画部部长]  
青木俊介[経済産業省文化創造産業課総括係長]  
田村順也[文化庁参事官(芸術文化担当)付芸術文化調査官]

司会:とちぎあきら[コミュニティシネマセンター理事/フィルムアーキビスト]



会議には是枝裕和監督と山崎貴監督が招かれ、是枝監督から具体的な提言が出されました。それを受けて6月に「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024年改訂版」が発表されました。その中で「3. コンテンツ産業活性化戦略」として、映画振興に触れられており、今後の映画振興に関する企画立案を集中的に検討する「映画戦略企画委員会」を設置し、コンテンツ産業の担い手であるクリエイターの支援について、発掘から、育成、製作、海外展開まで一貫通貫で支援できるよう、文部科学省(文化庁)・経済産業省が協働すること、クリエイター支援の強化を念頭に、教育・人材育成、労働環境整備、製作支援、国際展開支援、国内流通機能強化、国際プレゼンス向上等のカテゴリごとに実行するとされ、「国内の流通機能」を強化すべきだということもひとつの柱に挙げられています。→資料1

資料1:「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024年改訂版」(令和6年6月21日)より抜粋

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii\\_sihonsyugi/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/index.html)

## 3. コンテンツ産業活性化戦略

日本発のコンテンツの海外売上げは、我が国の鉄鋼産業、半導体産業の輸出額に匹敵する規模である。また、キャラクターの世界ランキング上位の半数は、日本のものになっている。

アニメ・音楽・放送番組・映画・ゲーム・漫画といったコンテンツは、我が国の誇るべき財産であり、ここに下記の通り、「コンテンツ産業活性化戦略」を策定・明記し、政府を挙げて、官民連携による本戦略を推進する。この際、官は環境整備を図るが、民のコンテンツ制作には口を出さないという、官民の健全なパートナーシップを築くことを目指す。

## (1) クリエイター・コンテンツ産業に関する司令塔機能の強化

クリエイター・コンテンツ産業に係る政府の司令塔機能を明確化した上で体制を強化

し、クリエイターの発掘・育成や海外展開支援に取り組む。

## ① コンテンツ産業官民協議会の設置

内閣府・文部科学省(文化庁)・経済産業省・総務省・外務省・公正取引委員会等の関係省庁等及びコンテンツ関係者(クリエイター、関係業界等)から構成されるコンテンツ官民協議会を設置する。事務局は内閣府知的財産戦略推進事務局とする。任務として、クリエイターが安心して持続的に働ける環境の整備に加え、クリエイターの海外展開・情報発信、デジタル化等に対応したコンテンツ産業の改革、海賊版対策、クリエイター・コンテンツ産業の支援制度の在り方等について戦略的な議論を行い、官民で進捗状況について共有・確認しながら、PDCAサイクルを回していく。

## ② 映画戦略企画委員会の設置

上記コンテンツ官民協議会の下に、映画に特化した映画戦略企画委員会を設置する。構成メンバーは上記の関係省庁及び映画関係者(クリエイター、関係業界等)とする。任務として、映画関連のクリエイターが安心して持続的に働ける環境の整備、映画に



関する支援制度の在り方、映画の海外展開・発信、映画のロケ誘致等について具体的な方策の企画立案を行う。

### ③横串機能の強化、個人の創造性支援の強化

コンテンツ産業官民協議会、映画戦略企画委員会を通じ、コンテンツに関する各種支援制度について点検しつつ、個人にとっても分かりやすいよう、メニューを一覧化する等、横串を通していく。

特に、創造性を有する個人のクリエイターが、企業という「プラットフォーム」を活用し付加価値を生み出していく経済構造への変化を踏まえ、クリエイター個人に対し、発掘から、育成、製作、海外展開まで一貫通貫で中期的に支援できるよう、文部科学省(文化庁)・経済産業省が協働して支援していく。

### ④コンテンツ政策に関する既存事業の統合・強化

クリエイター・コンテンツ産業に対する一貫的で強力な支援体制を構築するため、既存事業の主要なものについて、文部科学省・経済産業省の両省庁の施策を統合して執行する体制へと変革する。

具体的には、これまで両省庁で要求してきたクリエイター支援・事業者支援双方を束ね、「クリエイター支援基金」に統合する。クリエイター支援の強化を念頭に、教育・人材育成、労働環境整備、製作支援、国際展開支援、国内流通機能強化、国際プレゼンス向上等のカテゴリごとに実行するよう、体制を刷新する。

## (2) 海外展開及び世界に通用するコンテンツの制作・流通の促進

海外展開を促進するため、海外への進出に際しての制作会社に対するビジネス展開の支援、国際見本市や国際映画祭における出展支援や、若い人に対する留学支援や国内での学びの場の整備等を実施する。

また、放送番組・音楽等の世界に通用するコンテンツの制作・流通とともに、海外での評価形成基盤の構築、地方での取組やコンテンツ産業の活性化等に取り組む。

### ①次世代を担うクリエイターの育成

コンテンツの競争力の源泉はクリエイターにある。このため、才能ある人材の育成プログラムとして、選抜されたクリエイターによるコンテンツ制作・発表・海外展開の支援と、メンターによる伴走支援を実施する。

若手クリエイターを海外に派遣し、世界に通用するコンテンツ制作の経験を積む機会を提供する。海外展開時の契約交渉にかかる弁護士や会計士等の専門家費用を支援する。また、国際舞台での活躍が期待されるクリエイターとプロデューサーの双方について、国際的なネットワーク形成や国際見本市や国際映画祭への出展支援を強化する。また、海外展開を目指すクリエイターや制作会社に対して、作品の翻訳や吹き替え等のローカライズの支援を検討する。

クリエイターを目指す高校生や専門学校生に対して、留学支援を実施する。

デジタル技術を活用してコンテンツを制作するデジタルクリエイターの育成(ゲームや映像制作のグローバルプラットフォームにおいて行う制作の支援)を図る。

### ②エンタメ分野の日本のスタートアップの海外進出

米国西海岸シリコンバレー等を含め、エンタメ分野のビジネスの海外進出に取り組む我が国のスタートアップに対して、その事業実施を支援する。また、他分野からの参入に積極的に取り組む企業を支援する。

### ③コンテンツ制作の支援

グローバルに通用する作品の制作の資金の確保のため、制作会社が自ら資金調達をして行う作品の制作支援を行う。

また、我が国の放送番組、映画の制作の現場では、VFX(撮影後の仕上げ作業時に行われる画面効果を高める技術)や3DCG等のデジタル技術の活用が十分進んでいない。i)映像上の背景や建築物等のデジタルアセットの制作とそのアーカイブ化の促進、ii)スタジオの民間整備の促進、iii)海外の大型作品の日本国内ロケ・制作の支援を行う。

### ④クリエイター育成のための高等教育機関の整備

アニメ・漫画・映像・音楽等の業界と教育界をつなぐ、スキル調査・フィードバックや、クリエイター育成のための基礎教育プログラムを提供するほか、クリエイター及びコンテンツ産業育成に必要な能力を得ることができる大学学部や専門学校のコースを創設し、振興する。また、関連分野での留学生の積極的な受入れを図り、国際的な人材の循環を作る。

コンテンツ産業分野における海外人材の獲得のため、特定技能制度の活用に向けて、どのような業務に従事する人材が必要であるか、当該分野が生産性の向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人手不足であるか等についての検討を行う。

コンテンツ産業の海外展開を強力に推進するため、グローバル市場を前提としたプロデューサーの育成に取り組むとともに、コンテンツ単体への支援にとどまらず、分野を越えて連携したミックスカルチャーの取組を活発化させる支援体制を整備する。

### ⑤日本貿易振興機構及び国際交流基金等による支援

日本貿易振興機構(JETRO)の海外事務所を活用して、コンテンツ専門人材を採用・配置し、海外に進出するクリエイター・関連企業の現地におけるビジネス展開を支援、現地でネットワーク形成を進める。

また、アーティストが海外で認知を獲得するためには海外公演が重要であるが、事業者にとってリスクが高く、円滑な実施に課題もあることから、日本貿易振興機構等の海外拠点における関係機関と連携した現地サポートや、海外展開に係る補助金を活用した海外公演の開催支援を推進する。

さらに、コンテンツ振興のため、東京国際映画祭における映画人の交流のためのアジア交流ラウンジを含め、国際交流基金による支援を進める。

### ⑥放送番組・音楽等の世界に通用するコンテンツの制作・流通

放送番組の制作現場において、放送に関わる全ての人々に、ハラスメント、いじめ、長時間労働等が行われないよう、テレビ局等は自主的に取組を進める。

放送番組の制作取引において、一方的に著作権を発注者に帰属させることやハラスメント等が行われないよう、ガイドラインを整備し、遵守・徹底を図る。

世界に通用する放送コンテンツの制作・流通を推進し、クリエイターへの適切な対価還元を実現する。クリエイターのための4K設備・VFX等の利用環境整備、4K・VFX制作技術等のノウハウ習得のための人材育成や権利処理効率化を支援する。

我が国のコンテンツ産業の国際競争力を高めるべく、海外向け放送コンテンツの制作・流通を円滑化するため、日本放送協会と民間放送の共同による国内のインターネット配信プラットフォームの国内外への配信機能強化を後押しする。

### ⑦面的な海外展開に向けた窓口一元化と発信拠点整備

現在、文学、マンガ等の海外展開は、個別の作品ごとに行われ、1人の作家による作品といった包括的な形では進んでいない。海外からの問合せ窓口の一元化を図る仲介事業者(出版社・エージェント)の取組を支援する。

また、人々が国内外から集うような発信拠点の整備を検討する。

### ⑧海外での評価形成基盤の構築

マンガ、アニメ、美術、文学等について、i)コンクールやワークショップを開催し、翻訳や批評を行う専門人材を発掘・育成、ii)日本の作品を海外でライセンスアウト(売却・使用許諾)する際に、その営業や交渉において必要となる企画書の翻訳費用の支援、iii)世界的に影響のある美術館での作品の展示機会の確保や推薦作品リストの作成支援の検討を行う。

海外での評価形成に当たっては、作品の質のみならず、熱心なファンコミュニティの形成に向けた戦略性が不可欠である。国際映画祭や国際見本市におけるジャパンパビリオンの出展とその場での作品のプロモーションを支援する。音楽についても、グローバルなプラットフォームを活用して現地の熱心なファンコミュニティ形成を後押しする。

### ⑨地方でのコンテンツ関連の取組の活性化

地方におけるロケ地誘致やコンテンツを用いたイベント開催は、海外からの観光需要の創出につながる。地方での取組を後押しする。海外制作会社による大規模映像作品のロケ撮影等の誘致は、地域経済活性化やインバウンド需要喚起のみならず、国内映像産業の高度化につながることから、特にVFX等デジタル技術を活用したプロダクションを伴う作品誘致を推進する。

### ⑩知的財産と異なる産業の組合せによる新たなコンテンツ産業の創出

デジタル化への移行を契機に、日本国内に眠る様々なコンテンツの利活用を進め、異なるコンテンツ・産業との組合せ等を通じて、新たな知的財産(IP)活用によるコンテンツ産業の創出を図る。

音楽については、日本ブランドのキュレーション(情報の編集・発信)の在り方の再構築に向けて、デジタル化時代に対応した過去のコンテンツの利用に係る権利の整理や適切な対価還元を実現するための方策について検討する。

アニメ・漫画については、海外プラットフォームが市場支配力を有する中、ブロックチェーン等の新たな技術を活用し、日本発プラットフォームを創出しようとするコンテンツ事業者を支援する。

アートについては、博物館同士の連携強化、博物館におけるデジタル・アーカイブ化の促進、博物館の資金調達能力の向上等を含め、我が国全体の博物館の機能強化に向けた方策を検討する。また、国際的な影響力を持つアートフェアとの連携強化、国内開催に対する支援等により、我が国アートシーンのプレゼンスの向上を図る。さらに、美術館における漫画、アニメ、ゲーム、メディアアート等の展示が可能となるよう原画等の収集、保存及び公開並びにデジタル・アーカイブ化の促進を図る。博物館等に対するクラウドファンディング等の活用に関する周知を図るとともに、博物館の資金調達力の向上に向けた方策を検討する。

① DAO や先端技術の利活用促進

映像等のコンテンツ製作やクリエイターへの対価還元において、DAO（分散型自律組織）の仕組みは活用余地がある。また、製作工程のDXや、映像等の魅力向上、翻訳の効率化による海外展開促進、さらにはクリエイターへの対価還元等において、テクノロジーの活用は非常に有効である。AIやVFX、web3等の先端技術の利活用を促していくため、コンテンツ事業者のデジタル技術の利活用を支援する。

② 海賊版に対する対策強化

日本のコンテンツの海賊版が生成AIにより学習されるおそれや、外国での被害も深刻化する中、国外犯処罰の導入検討も含め、国際執行を強化するとともに、日本企業による海外プラットフォーム買取等も活用しつつ、海外への正規版の流通を促進する。

③ クリエイターが安心して持続的に働ける環境の整備

革新的なコンテンツの創造活動を行っていくためには、我が国でも、オープンで広い人的ネットワークのエコシステムを形成する必要がある。他方で、制作現場の労働環境や賃金の支払といった側面で、クリエイターが安心して持続的に働くことができる環境が未整備である。我が国のクリエイターの創造性が最大限発揮される環境を整備する。

第一回映画戦略企画委員会

9月9日に「映画戦略企画委員会」の第一回の会合が開催されました。この会合で、委員である是枝監督から改めて提言がなされました。この中でも「ミニシアター～「鑑賞」の場の確保～」ということで、「・・・将来的にはこのミニシアターを地域の図書館と同じような映像文化発信基地として定着させ、ここにも映像学芸員として、映像系大学生が就

資料2-1：「新しい資本主義のグランドデザイン及び  
実行計画 2024年改訂版案」  
(2024年6月7日)より抜粋

(1) クリエイター・コンテンツ産業に関する司令塔機能の強化

- コンテンツ産業官民協議会を設置し、その下に、映画に特化した「映画戦略企画委員会」を置き、具体的な方策の企画立案を行う。
- コンテンツの創造力の源泉であるクリエイターの発掘、育成、製作、海外展開まで一貫通費で中期的な支援を行う。
- 文科省、経産省によるクリエイターと事業者双方の支援を束ねて、「クリエイター支援基金」に統合し、教育・人材育成、労働環境整備、製作支援、国際展開支援、国内流通機能強化、国際プレゼンス向上等を実行する。

(2) 海外展開及び世界に通用するコンテンツの制作・流通の促進

国内での学びの場の整備等を実施する。

(3) クリエイターが安心して持続的に働ける環境の整備

年明けより映画・アニメの制作現場におけるクリエイターの取引環境に係る実態調査を行う。

クリエイターやアーティスト等を対象に、適切な収益還元や健全な労働環境等を阻害する労働慣行や取引関係の是正に着手し、官民の取組により、制作サイドに収益を還元するビジネスモデルを構築する。

① 優越的地位の濫用防止等と取引適正化

実演家等が働きやすい環境を作るためには、取引慣行を是正していくことが不可欠である。現下の技術革新の中で、コンテンツ産業については、個人の創造性に重点が移りつつあることに鑑み、公正取引委員会の協力の下、優越的地位の濫用等を防止し、個人を守ることに力点を置いて、音楽・放送番組の分野の取引慣行等について実態調査を行い、本年内に完了する。

この際、実演家・クリエイターの事務所移籍に際して、移籍前の事務所が在籍当時の過去素材の権利を所有し続ける場合、その許諾を拒否することで、その利用を妨げ、事実上、移籍後の仕事をできなくするといった慣行が見受けられないか、調査を行う。この調査結果を踏まえて、実演家と事務所との間の契約等を適正化する観点から、それに反する行為は独占禁止法に抵触するおそれがあることを示す指針の作成を図る。映画・アニメ等のクリエイター個人の創造性が最大限発揮される取引環境を整備するため、音楽・放送番組の分野の実態調査に続けて、年明けから、映画・アニメの制作現場におけるクリエイターの取引環境に係る実態調査を行う。

② その他の取引適正化に向けた取組

現在、クリエイターや制作会社の多数は多重下請構造の中にあり、制作現場には十分収益が還元されていない。エンターテインメント業界における実演家・クリエイターの権利保護や労働慣行は是正に向け、「文化芸術活動に関する法律相談窓口」の体制強化を図る。

また、クリエイターは発注業者との関係において劣位な立場に置かれることが多く、事前に業務内容や報酬額、支払時期等が十分に明示されないまま不利な条件の下で業務に従事せざるを得ない状況があるため、この秋施行されるフリーランス・事業者間取引適正化等法の活用を図る。

職できるようにしたい」と、映画映像教育の現場として、ミニシアターを学校と連携する形で使っていくべきではないかということを提言されています。合わせて現在ミニシアターがデジタルシネマ機の更新という大規模な設備投資という課題に直面していることにも触れられています。この会合を受けた首相のコメントでは、映画戦略企画委員会や、経産省や文化庁に分かれている映画振興に関する予算をひとつにまとめた「基金」を創出し、そこから支援を行うことができないかということが触れられていました。→資料2

資料2-2：「映画戦略企画委員会」第一回会合(2024年  
9月9日)における是枝裕和委員提出資料より

人材育成の場として、以下の観点からミニシアターへの支援を提案する。

- 学校での映像教育を、ミニシアターとの連携のもとに行う。
- DLPシステムの更新に対する公的助成を行う。
- 将来的には、ミニシアターを地域の映像文化発信基地として、映像学芸員を配置する。

以上を実行して、人材を増やしていくための土壌を豊かにすることが、業界のセイフティネットとなる。

「映画戦略企画委員会」第一回会合後の岸田首相のコメントから、注目点を抜粋

- 「クリエイター」とは「映画監督や制作現場の方々」を指している。
- 関係省庁の予算を統合する「クリエイター支援基金」は、クリエイター産業に対する一貫的で強力な支援体制を構築するため、クリエイター支援と事業者支援双方を束ねるものである。



そもそもクリエイターとか、我々を含め映画に関わる人間がどうやって育ってきたのかと考えると、映画館とりわけミニシアターで映画をたくさん見て、考え、人と話していく中で、映画の仕事をしたいと考えるようになったという人がほとんどだと思うのです。そのような、映画館が持っているある種の社会的な、教育的な機能を、しっかりとした言葉で語り、外部の方々に伝えていくためにはどうすればいいのかということを考えることが、本日のシンポジウムの出発点になります。

## ディスカッション

### とちぎ:

最初に、佐々木会長にお話を伺いたいのですが、全国コミュニティシネマ会議に、シネコンを中心とした興行界を代表する全興連の会長に登壇していただくということは本当に画期的なことで、非常に感慨深いことだと思います。佐々木さんご自身は、佐々木興業株式会社の会長でもあり、佐々木興業はシネコンを経営しつつ、札幌市では「サツゲキ」というミニシアターの経営も行っておられる、ミニシアターの重要性や経営の難しさもご自身で体験された上で、ミニシアターについてとても積極的に発信されている方ですので、その辺の経歴をふくめて、全興連の活動の全体像を踏まえながらミニシアターの意義や重要性について、お話をいただきたいと思います。

### シネコンの経営とミニシアターの経営

#### 佐々木伸一:

私ども、佐々木興業の本拠地は池袋にあり、「グランドシネマサンシャイン」がフラッグシップの映画館で、ここは5年ほど前にオープンしました。そのほか、現在17ヶ所の映画館を経営しています。ご案内いただいたとおり、2022年に「ディノスシネマ」という北海道の名門の映画館が民事再生法の適用となり、その再生スポンサーとして、私どもがお手伝いをさせていただくこととなり、現在、「サツゲキ」というミニシアターを運営しています。

経営感覚として申し上げれば、シネコンというのはひとつの経営のシステムに過ぎないと思っています。1館の映画館を運営するコストに対して、例えば、10スクリーンあってもその経費は単純に10倍にはなりません。感覚的に申し上げると1館の3倍程度で済むわけですが、このように経費を抑えて安定的に運営するというのがシネコンの経営システムです。シネコンの番組編成は8〜9割は自動的に決まります。要するに、配給会社が出す大型作品を消費する場所になっていますので、ほとんど自動的に決まってくるわけです。一方、ミニシアターというのはゼロから番組編成をしなくてはならないため、非常に手間がかかります。経費はシネコンよりも多くかかり、経営面で非常に厳しいということを頭では理解していたつもりでしたが、実際に経営をしてみて、その厳しさが実感として非常によくわかったところがあります。

## 全興連のミニシアター支援プロジェクト

### 佐々木:

「全興連(全国興行生活衛生同業組合連合会)」とは、全国の映画館を始め、「興行場法」が適用される演劇場や演芸場の集まりで、厚生労働省が所管しています。映画館が主なメンバーで、全国の映画館の98%を組織する団体で非常に組織率が高いのが特徴です。今年度の全興連の大きなテーマとして「全興連ミニシアター支援プロジェクト#ミニシアターへ行こう」を実施しています。主にミニシアターが行うクラウドファンディングを支援することと、ミニシアターを応援するユーチューバーなどアンバサダーを派遣し動画を配信することを行っています。残念ながら、あまりご参加いただけていないのですが、「高田世界館」という日本最古の映画館にクラウドファンディング第1号としてご参加いただき、目標額の850万円をはるかにこえる1250万円を集めることができました。今年度は、アンバサダーとクラウドファンディングの二本立てでミニシアターを支援していきたいと考えています。→図1

図1: #ミニシアターへ行こう ウェブサイトスクリーンショット



### とちぎ:

全興連でミニシアター支援プロジェクトをやっているということで、全興連もコミュニティシネマも、同じ方向を目指しているという感じになっているのは非常に心強いと思っています。

## 配信と映画館

### とちぎ:

本日は、配信の話もしていただきたいと思います。「U-NEXT」の林さんは、メディアでも様々な発言をされている中で、映画館での公開と配信での公開は決して対立関係ではなく、むしろ共存関係にあるということを明快におっしゃっています。具体的にはU-NEXTが事業展開の中で、配信で映画を見るお客さんをどれだけ映画館に取り込めるのか、どうすれば映画を見る観客の裾野を広げることができるのか、細かく制度設計されている点に非常に興味を持っています。

## 林健太郎:

配信プラットフォームでありながら、この場におよびいただけて光栄に思っています。きょうは、配信事業者であるU-NEXTが、映画文化・産業をどう見て、どう考えているかをお伝えしたいと思います。

まず、U-NEXTのサービス全体のことをお伝えします。有料の動画配信サービスは、SVOD（定額制＝見放題）とTVOD（都度課金＝レンタル）のふたつに分かれており、U-NEXTはこのふたつのハイブリッド型で展開しています。「Netflix」はTVODなしで、完全にサブスクで追加料金なくサービスを提供していて、「アマゾンプライムビデオ」は我々と同じハイブリッド型ですが、我々のセールスポイントは「ポイント利用」の部分にあります。→図2

SVODについては、全てのジャンルでカバレッジを高めることに取り組んでいます。圧倒的なカバレッジを目標にしており、洋画、邦画などのジャンルでは2位以下にダブルスコア以上をつける結果になっています。雑誌の読み放題は200媒体を超えており、4アカウントまで無料で視聴できる点では、ご家族で入っていただくには非常にお得なサービスだと思います。

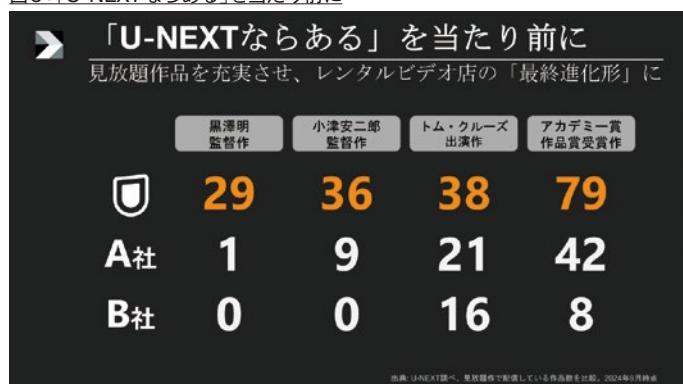
それに加えて毎月1200円分自由にご利用いただけるポイントが付与されます。このポイントの使い道としては、最新映画のレンタルやコミックの購入に加え、映画館のチケットに交換することもできます。

UNEXTは、国内のマーケットシェアでは二番手につけています。1、3、4、5位とすべて海外勢の中で、なんとかここも踏ん張ってポジションを保っている状況です。会員数は現在約430万人で、会員のサービス

図2: 有料動画配信の種類



図3: 「U-NEXTならある」を当たり前



利用状況を示すアクティブ日数は、30日間で平均8日間から9日間と、全サービスの中で最も高い数値を示しています。

## “映画図書館”のようなプラットフォーム

ここからは映画ジャンルについてお話しします。カバレッジについては、2017年当時は各社横並びで、見放題作品数が約1500～3000本でした。3000本だとキュレーションしようにも全く不十分で、U-NEXTでは30,000本を目標として、作品を増やし続け、2024年現在、18,000タイトルが見られる状況となっています。

我々が目指しているのは、“ビデオレンタル店の最終進化系”です。ビデオレンタル店こそが、映画館と並んで街の映画文化を支えてきた存在だと認識していますが、90年代前半には全国で約15,000軒あったレンタル店は、現在では約2,000軒に減少しています。これによってできたレンタル店空白地帯に住む方々にも映画を楽しんでいただけるよう、作品数を揃えるとともに、デジタルの便利さをそこに付加することに取り組みたいと考えています。“映画図書館”といってもいいのかもしれませんが、貴重な映画資料にアクセスできるようにすることが、結果、クリエイターの育成にもつながるのではないかと考えています。→図3

## TVODとSVOD

U-NEXTでは、TVODは最新作を見るためのものであると明確に整理しています。公開から月日が経ったアーカイブは見放題で見やすくする一方で、最新作は、TVODで課金して見る設計にしています。映画ビジネス的には、このTVODが非常に重要で、映画産業のあり方を健全に保つものではないかと考えています。

U-NEXTの映画ジャンルにおけるTVODの成長率は7年間で10倍と大きく伸びています。SVODの作品数を増やしたことで、映画ジャンルのお客様がどんどん増え、そうした方々の「課金してでも最新作を見たい」という需要に応えている形です。TVODにおける国内シェアを見ると、サービスを提供する事業者は国内に十数社あるのですが、U-NEXTがおおよそ6割程度を占めていて、かなり寡占化が進んでおり、あまり望ましくない状況にあります。

U-NEXTでは、映画館での公開から約半年経ったところでTVODをスタートして料金として399円いただき、そこから約一年経過したらSVODで見放題にするという循環を基本形としています。なお、映画会社の意向で、プレミアムVODとか高額TVODと呼ばれる399円より高い価格で、レンタルをすることもあります。いずれにしても、TVODで料金をいただき、それを権利元へ還元するというを行っています。一方、グローバル・プラットフォームは、映画産業のあり方を根本から変えようとしているように見えます。公開から早ければ数週間、あるいは3ヶ月ぐらいで、独占的にSVODで見放題にしてしまいます。これが定着すると、お客様が「映画は無料だ」と錯覚するようになります。そのうち、映画館に行かなくても、少し時間が経てば映画は無料になるという認識が広まる、まずい状況にきています。ここ4年間ぐらい



図4: 映画の一生、どちらが幸せ?

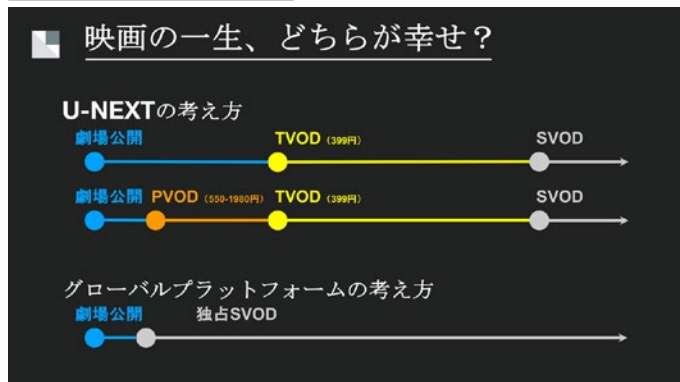


図5: ONLY ON U-NEXT映画は3年で180作品



はずっとこの戦いをしているのが現状です。→図4

この状況を放っておくと、注目作はすべてSVODで独占されてしまうため、我々が独占するときは必ず一定期間TVODを置くということをやっています。

また、2021年から、「ONLY ON U-NEXT」という冠をつけた独占配信をはじめまして、3年間で約180本、とにかくいい映画を集めようということで、そのために製作への出資も行っています。いい映画にコミットして、いい映画が生まれることのお手伝いできたという思いで取り組んでいます。→図5

**とちぎ:**

お話を伺い、配信を通して、これからどういった観客を育てていきたいのかということがはっきりわかる戦略をとられていることに関心を持って聴かせていただきました。

#### 「action4cinema日本版CNC設立を求める会」の取り組み

**とちぎ:**

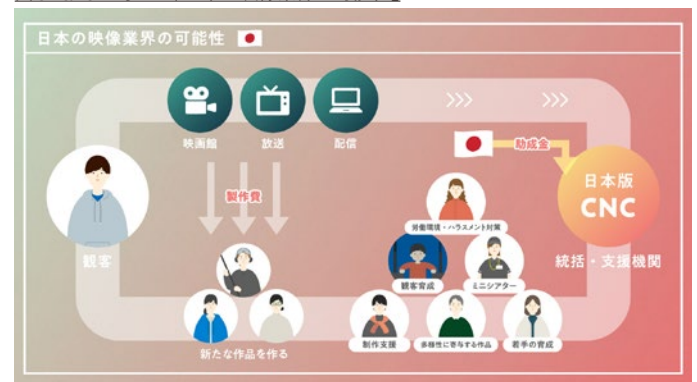
是枝監督が「新しい資本主義実現会議」で提言を出された背景には、「action4cinema (a4c)」という団体を組織し、そこで検討されてきたことがあります。a4cのメンバーである岨手監督に、この間の経緯を含めて説明を加えていただければありがたいと思います。

**岨手由貴子:**

クリエイターが何かを求めると、制作現場だけに助成を求めているよう

に受け取られがちなのですが、「action4cinema日本版CNC設立を求める会」では、日本にもフランスのCNCのような統括支援機関があって、興行収入の中から一定のパーセンテージをトップオフして、それが制作支援や、観客教育、若手の育成、映画館(ミニシアター)への助成など、必要なところに支援が行き届くような仕組みができれば、結果的に作り手が育ち、新たな作品が生まれ、それが観客のもとに還元されるという循環するシステムの実現できるのではないかと、そういうことが必要だということを訴えてきました。→図6

図6: a4cが考える「日本の映像業界の可能性」



この趣旨を、関係省庁をはじめ様々な方々に伝え、意見交換を続けてきましたが、やはり財源をどうするのかというところで、なかなか賛同が得られず、前に進まないという状況が続いていました。そんな中、今回、是枝監督が提言をする機会に恵まれました。まず、最初のステップとして、是枝さんが新しい資本主義実現会議に出席して、映画戦略企画会議とコンテンツ産業官民協議会という二つの会議が設置されることが決まりました。

a4cとしては、共助の仕組みを前提とした提言をしてきたので、新しい資本主義のグランドデザインで示された形は理想の形ではありませんが、文化庁と経産省の映画関連の施策を統合してクリエイター支援基金をつくるというのは、非常に大きな一歩だと捉えています。新たな資金が投入されるということではなく、いまある助成金やシステムをより使いやすく効率的に整理しなおすというのですが、そこから今後、その中身が拡充されていくことを期待しています。

私自身は映画監督です。長野県出身で、長野市の「相生座ロキシー」でたくさん映画を見て、映画監督になりました。7年前に金沢に移住しまして、現在はミニシアター「シネモンド」に通いながら、「こども映画教室」にも参加するなどしています。自分の仕事でもある映画が、自分の生活や子育てのツールとしてもすごく役立っています。「コミュニティシネマ」という考え方は、まさにいま、自分が金沢で実現していることです。本日の議論でいろんなお話を聞かせていただけることを楽しみにしています。

たかさきコミュニティシネマの“クリエイター育成”

とちぎ:

志尾さんはコミュニティシネマセンターの代表理事である一方、「NPO 法人たかさきコミュニティシネマ」の代表でもあり、高崎映画祭やミニシアター「シネマテークたかさき」を運営されています。高崎映画祭からシネマテークたかさきという常設の映画館が生まれたわけですが、一貫して日本におけるインディペンデント映画作家、若い作り手の作品を上映し、彼らの次の作品の製作にも関わるなど、映画作家を育てる“親”のような役割を演じてこられたように思います。そのことを含め、地域で映画の上映をするということと、今回の主題である人材を育成することの関わりを、お話しいただければありがたいです。

志尾睦子:

NPO 法人たかさきコミュニティシネマは2004年に設立されました。その原点となる高崎映画祭からお話しさせていただきます。1987年に始まった高崎映画祭は、2024年3月で37回を迎えました。16日間で80作品を上映していた時期もありましたが、時代の変化や自分たちが置かれている状況の変化もあり、2024年は9日間で51作品を上映しました。この映画祭のコンセプトは非常にシンプルで、東京に行かないとなかなか見られない映画を高崎でも見せたい、上映したいというところから始まっています。これは一貫していて、エントリー制ではなくコンペもないので、私たちが映画館や映画祭に出かけて行って、高崎映画祭の観客に見せたい作品を探し、上映するということをひたすら続けてきました。

新しい才能との出会いの場をつくる

上映作品の柱のひとつとして、“若手監督の発掘と育成”を第1回から掲げています。若手監督の作品だけを集めた部門を設けて、そこで新しい才能に出会ってきました。また、日本映画に対して独自の視点から賞を出しています。若手監督グランプリ(現在は新進監督グランプリ)の受賞者だけを並べてみると、このような名前が並んでいます。→資料3  
新たな才能を地域の皆さんに届けることは地方の映画祭の使命だと思います。映画祭を続ける中で、日常的に映画を見られる場をつくりたいということで「NPO 法人たかさきコミュニティシネマ」という組織をつくり、「シネマテークたかさき」という映画館をつくりました。  
シネマテークたかさきでも、映画祭からのつながりを大事にしていって、映画祭で授賞したり、若手監督特集で紹介した監督の作品は、地域の観客の皆さんへのご報告という意味で、意識的に追いかけて上映するようにしています。シネマテークたかさきで上映してきたインディーズの監督たちの初監督作品を一覧にしようと思ったのですが、膨大過ぎて頓挫してしまいました。やはり20年間やってきたというのは非常に大きいことなのだと改めて感じた次第です。

資料3: 高崎映画祭「新進監督グランプリ」受賞者

	回	受賞者	作品
1987	1回	山川直人	『ピリイ★ザ★キッドの新しい夜明け』
1988	2回	山本政志	『ロビンソンの庭』
1989	3回	長崎俊一	『ロックよ、静かに流れよ』
1990	4回	利重 剛	『ZAZIE』
1991	5回	松岡錠司	『バタアシ金魚』
1992	6回	竹中直人	『無能の人』
1993	7回	塚本晋也	『鉄男II BODY HAMMER』
1995	9回	廣木隆一	『800 TWO LAP RUNNERS』
1995	10回	岩井俊二	『Love Letter』
1996	10回	是枝裕和	『幻の光』
1997	11回	青山真治	『Helpless』
1998	12回	諏訪敦彦	『2/デュオ』
1998	12回	河瀬直美	『萌の朱雀』
1999	13回	中野裕之	『SF サムライ・フィクション』
2000	14回	塩田明彦	『どこまでもいこう』
2000	14回	石井克人	『鮫肌男と桃尻女』
2001	15回	緒方 明	『独立少年合唱団』
2001	15回	沖浦啓之	『人狼』
2002	16回	行定 勲	『GO』
2002	16回	古厩智之	『まぶだち』
2003	17回	天願大介	『AIKI』
2003	17回	万田邦敏	『UN loved』
2004	18回	西川美和	『蛇イチゴ』
2005	19回	紀里谷和明	『CASSHERN』
2005	19回	井口奈己	『犬猫』
2006	20回	成島 出	『フライ、ダディ、フライ』
2006	20回	萩生田宏治	『帰郷』
2007	21回	唯野末歩子	『三年身籠る』
2008	22回	群青いろ (廣末哲万/高橋 泉)	『14歳』
2009	23回	熊坂 出	『パーク アンド ラブホテル』
2011	25回	吉田恵輔	『さんかく』
2011	25回	真利子哲也	『イエローキッド』
2012	26回	砂田麻美	『エンディングノート』
2012	26回	入江 悠	『劇場版 神聖かまってちゃんロックンロールは鳴り止まない』
2013	27回	三宅 唱	『Playback』
2014	28回	小林啓一	『ももいろそらを』
2015	29回	安藤桃子	『0.5ミリ』
2016	30回	山崎樹一郎	『新しき民』
2017	31回	小路紘史	『ケンとカズ』
2018	32回	坂本欣弘	『真白の恋』
2019	33回	野尻克己	『鈴木家の嘘』
2019	33回	春本雄二郎	『かぞくへ』
2020	34回	広瀬奈々子	『夜明け』
2022	35回	三澤拓哉	『ある殺人、落葉のころに』
2023	36回	工藤梨穂	『裸足で鳴らしてみせろ』
2023	36回	森井勇佑	『こちらあみ子』
2024	37回	磯部鉄平	『風の憂鬱』
2024	37回	工藤将亮	『遠いところ』



## 映画祭から映画館、フィルムコミッションへ〜クリエイターを育てる

### 志尾:

組手由貴子監督の作品も、ぴあフィルムフェスティバル2008で準グランプリを受賞された『マイムマイム』を第29回高崎映画祭で上映させていただきました。その後、『グッド・ストライプス』(2015)はシネマテークたかさきで上映しました。2021年の『あのこは貴族』は展開が大きな作品で県内のシネコンで上映されたため、シネマテークたかさきでは上映できなかったのですが、高崎映画祭で水原希子さんに最優秀助演女優賞を授与し、監督にも一緒に来ていただきました。2008年、2015年、2021年と継続的に紹介することで、映画祭や映画館の観客の皆さんに「あの監督の次の作品はこれです」「いまでも頑張ってますよ」と報告をするような気持ちで上映しています。それともうひとつ、私たちが映画を上映し続けるときには、できるだけ監督をお呼びして観客とお話していただくようにしています。それが、次の制作につながると信じています。

また、彼らの次のステップアップのときに何か役に立てないかと考える中で、“フィルムコミッション”という形で映画の制作支援事業を始めることになりました。現在も、次の高崎映画祭に向けて、ある若手監督と短編映画の制作を進めています。彼がインディーズ時代に自主制作でつくった映画をシネマテークたかさきで上映しました。そのときに監督をお呼びして「いつか何かやりましょう」と言っていたことが、7、8年経って実現することになり、来月クランクインします。先日脚本の読み合わせがあり、監督がキャストの皆さんの前で挨拶をされたのですが、その中で「高校生のときにシネマテークたかさきによく映画を見に行きました。ここは何とか少し変で、自主映画と言われる低予算の映画とか、とにかく上映している作品が変なんですよ。外国の映画もたくさん見ました。その中で、こんな映画を撮りたいと思うこともあり、特に様々な自主映画を見たときに、これなら自分でも撮れると思って、いつの間にか映画監督を目指していました」とおっしゃいました。これまで何度も監督とお話をしているのですが、まさかそのように思われていたとは全く思いませんでした。たまたま先日、そんな話をされて、この場でお話しするにはもってこいだと思いました。そんなことを言ってくれる人が育っている、20年間続けてきたことの意味を強く感じました。このお二人の監督のエピソードが、我々の理念と活動をお伝えするのに一番伝わりやすいと思い、お話しさせていただきました。

### とちぎ:

高崎映画祭では、志尾さんが司会役で監督とトークをされるのですが、観客と監督の距離が非常に近いところでトークが行われている。双方をうまく繋ぐ役割として、映画祭のプログラマーとしての志尾さんの存在があるのだということを強く感じます。ミニシアターや映画祭という存在が、観客とクリエイターを近づけて、お互いに感じあいながら育ていくという環境がつくられていると感じます。

## 経産省、文化庁の映画振興策

### とちぎ:

本日、経済産業省と文化庁から映画振興の担当の方にお越しいただいておりますので、それぞれの省庁で映画振興に関して取り組まれていること、とりわけ上映や普及活動に関して取り組まれていることをお話しいたきつつ、始まったばかりの映画戦略企画委員会で、これからどのような議論が進められるのかといったあたりを聞かせていただければありがたいと思います。

### 青木俊介:

まずは経済産業省の施策を簡単にご紹介いたします。

経済産業省の中の文化創造産業課が、映画をはじめ、ゲームやアニメ、漫画、音楽、アート、ファッション、デザインといったコンテンツを含む分野に対する支援を行っております。今回、コンテンツ産業について政府としても取り組むべきということで“新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2024年改訂版”の中に盛り込まれています。経済産業省としても、コンテンツ産業が日本の誇るべき文化であり、それに加え“稼げる力”があるという点に特に着目しています。日本発のコンテンツの海外での売上高は半導体産業の輸出額などとも肩を並べるほど大きく、重要であると考えています。

ミニシアターへの支援とは直接結びつかないかもしれませんが、実行計画では、海外市場の獲得ということが念頭に置かれ、海外展開及び世界に通用するコンテンツの制作・流通の促進、国際舞台での活躍が期待されるクリエイターやプロデューサーの国際的なネットワークの形成、作品の翻訳や吹き替え等のローカライズの支援等が記載もございます。そのほかにも、エンタメ分野のスタートアップや、日本貿易振興機構(JETRO)の海外事務所の活用といったことなども記載されています。

コンテンツ産業への支援ということでは、経済産業省では「我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業補助金(通称: J-LOX+, Japan content LOcalization and business transformation (X) Plus)」を整備しています。こちらの補助金は、大きく分けると、デジタル化支援、制作やロケ誘致の支援、プロモーション等の海外展開支援という3つのメニューがあります。例えばデジタル化支援では、Web3や生成AI等の新しいデジタル技術を活用したビジネスに対する補助などがあり、制作支援では、制作費の支援とともに、海外からの資金調達を促すためのピッチ開発等への支援をしています。ロケ誘致の観点では、海外作品の製作に日本の製作会社が参加し、その作品が日本で撮影されることにより、人材の育成につながるといった側面からも支援をしています。海外展開支援では、海外向けのローカライズ&プロモーション支援として、翻訳や吹き替え、海外の展示会でのプロモーションの支援といった補助金が用意されています。このほかにも、海外展開において現地拠点での支援がほしいというお声をたくさんいただいて



おり、経団連の提言等も踏まえて、一部ジェトロ海外現地拠点にコンテンツ専門の人材を配置するなど、海外展開・ビジネスマッチングの支援をしています。

経済産業省としては、実写・アニメ問わず、波及効果ということも含めて経済的に“稼げる力”があるという側面も重要視をしていきたいと考えています。

「映画上映活動年鑑」等で、コミュニティシネマのレポートを事前に拝見させていただいており、現在DCPの更新時期であること、ミニシアターの経営自体がかなり苦しいという状況の中で、経産省で何ができるのか、是非勉強させていただきたいと思っています。文化発信の拠点としてのミニシアターという側面をどのように発展させるのか、どのようにすれば映画館の経営改善ができるのかといったことについては、経済産業省としても、ミニシアターで映画を見てきた私個人としても大変興味があり、皆さんのお話を聞かせていただきたいと思います。

## 文化庁の映画振興策

**田村順也：**

文化庁では、大きな柱としては若手映画作家等の人材育成と製作支援、海外への展開を掲げ、日本映画の創造・振興プランに取り組んでいます。映画をつくる人を育てるという観点から、大学生や専門学校の学生に映画現場を経験してもらいインターンシップのような形で映画業界への第一歩を経験する支援をしています。また、短編映画の制作を通じて技術や知識を習得する機会を提供し、プロデューサーと連携して企画や脚本開発のサポートを行う「ndjc:若手映画作家育成プロジェクト」も実施しています。優れた日本映画や国際共同制作の映画の製作に対する支援を行い、多様な作品の上映に寄与しています。また、日本映画の海外発信として、カンヌ国際映画祭やアヌシー国際アニメーション映画祭、トロント国際映画祭にジャパンプースを出展するなどして日本映画の魅力を発信し、招待作品の渡航支援等も行っています。また、ジャパンプースを活用した海外の映画人との交流、ネットワーク構築などにも力をいれたいと考えています。

本年度からは、日本と韓国の芸術系大学を対象に映像分野におけるグローバルネットワークの構築を行っています。また、令和5年度補正予算として文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業(クリエイター等育成プロジェクト支援)」も始まりました。クリエイター育成・支援は、世界に誇る我が国のマンガ、アニメ、音楽、現代アート、伝統芸能等の次代を担うクリエイター等による作品や公演の企画・交渉・制作・発表・海外展開までの一体的な活動を、5年程度の活動目的の下で、3年程度弾力的かつ継続的に支援するというものです。映画分野でも、海外の企画マーケットに参加し、国際映画祭への出品の機会や、ネットワークコミュニケーションの機会を増やし、国際的に活躍できる人材を育成したいと考えています。

こうした支援によりできた作品が、ミニシアターなどの映画館で上映さ

れることで、日本映画の文化の一層の振興をはかり、海外における日本映画に対する評価の維持向上と日本映画のブランドの確立を目指していきたいと考えています。上映や流通に関しては、海外発信力のある国際映画祭への支援、それから日本芸術文化振興会が実施している日本映画の上映活動に関する助成事業などがあります。各地のコミュニティシネマやミニシアターが行う独創的なプログラミングなど、日本映画の新たな魅力を発信する特色ある上映機会の支援を行っています。

## クリエイター支援資金

**とちぎ：**

新しい資本主義の実行計画には、関係省庁の予算を統合する形で、いわゆる“クリエイター支援基金”をつくるということが書かれているのですが、各省庁から考えれば、いままで積み上げてきたことが、統合されることによって削られてしまうと、全然違った方向にいくのではないかという抵抗感があるのではないかと思います。いかがでしょうか。

**青木：**

統合されることで削られるという考えはありません。経済産業省と文化庁等の省庁が映画産業に対して支援メニューを持っていますが、支援メニューが複数の省庁に分かれていてわかりにくいということから、それぞれの予算がある程度統合されて示されることによって、どのような補助が行われているのかがわかりやすくなるのは、産業全体にとって非常に有益であると考えており、予算が削られるというような後ろ向きな考えはありません。

## クリエイターの作品が上映される場としての映画館への支援の重要性

**佐々木：**

国の施策等では常に、クリエイター支援や海外展開に着目されます。クリエイターを育てるのが大事なことだというのはわかるのですが、ミニシアターをはじめとしたアートハウスがなければ育ったクリエイターの作品発表の場がなくなってしまいます。つまり、日本の重要な産業であるコンテンツ産業の新たな担い手が、ミニシアターがないと生まれてこないということは、割とわかりやすい文脈だと思うんです。今回も要望で入れさせていただきましたが、国のお金で育てたクリエイターの作品の発表の場に対する支援をなぜお考えいただけないのかと、いつも思います。現在も映画館では喫緊の課題として、デジタルシネマ機の買換えという大規模な設備投資が求められていることがあり、それに対する支援を要望すると、活用できる支援策として中小企業庁の持続化給付金等、既存の支援事業をご紹介いただくのですが、新たな販路拡大や経費削減というテーマがなければ、単なる機器の更新では補助をしていただけません。ミニシアターがないと、新たな日本のコンテンツの担い手が

育たないというのは明確な事実だと思いますので、ぜひそのあたりを考えていただきたいと思います。

とちぎ:

いまの佐々木さんの問いに対してはダイレクトにお応えしにくいと思いますので、少し回り道をして、林さんに配信事業者という立場から、人材を育てるということとどう結びついていくのかということについてお話いただけますでしょうか。

## 配信事業と人材育成

### 映画祭との連携

林:

U-NEXTでは、映画業界との取り組みのひとつとして、映画祭との連携を行っています。きっかけは2020年から拡大した新型コロナウイルスでした。日本全国の映画祭が開催中止となったり、規模縮小を余儀なくされたりする中で、われわれとして何かできないかと考え、“オンライン会場”としてU-NEXTを活用していただく取り組みを行いました。現地開催に合わせてTVODでオンライン配信することもできますし、映画祭が終わってしばらく経ってから見放題で配信することもできます。あるいは前年までの受賞作をU-NEXTで視聴できるようにして、最新作は映画祭に足を運んで見てもらうといった様々な方法で取り組みまして、現在、50の映画祭との連携が実現しています。各地域で映画文化を支えてこられたのが映画祭だと思いますので、そういった社会的な意義のある、若手クリエイターの育成や発掘の受け皿でもある映画祭のお手伝いができればと考えています。

また、U-NEXTの約430万人の会員のうち、約半分の200万人以上のユーザーが映画を定常的にご覧になっているのですが、アンケート調査によると、そのうちの約30万人はかなりのコアユーザーで1年間に12回以上映画館で映画をご覧になっている。ここは重要な映画コミュニティになっているのではないかと思います。U-NEXTでは、それぞれの映画祭の特集ページをつくり、その特集ページをSNSで拡散したり、その30万人の方々の目につくように、会期中はトップページに固定したりするなどして後押しをしており、監督や役者をはじめ作品に関わる方々には非常に喜ばれています。→図7

### 映画館との共存関係

映画館との連携という点では、U-NEXTポイントを映画館のチケットに交換できるサービスを2013年からスタートさせました。いまのところ大規模な映画館のみでミニシアターとの連携はないのですが、今後一層網羅性を高めていきたいと思っています。現時点では、80数%のスクリーンでU-NEXTポイントが利用でき、昨年は77万人の方々をU-NEXTから映画館へ送り込むことができました。これは、興行動員の約0.5%程度で、1%以上をU-NEXTから映画館に送ることができ

図7: U-NEXT映画祭応援ページ



図8: 2500スクリーン以上の映画館と連携

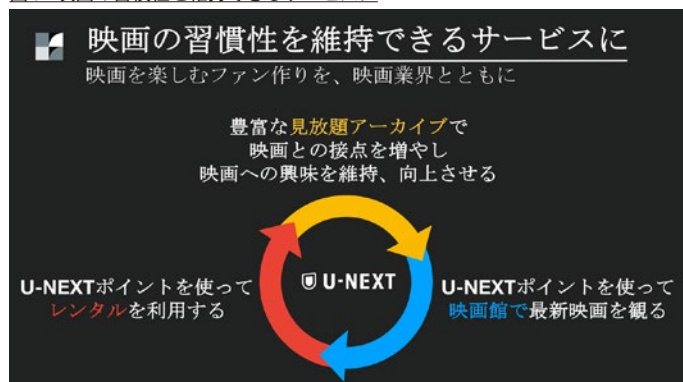


たという実績を早くつくりたいと考えています。

映画館と配信は競合関係にあるとよく言われるのですが、我々は完全に共存関係だと思っています。ただ、ここには先ほどお話しした、ウインドウと価格帯をしっかりと守れば、という注釈が付くと思います。実際、洋画大作が劇場公開からすぐに見放題配信されることが続いた結果、そのジャンルの映画興行が当たらなくなったという過去の事例もありますので、それだけはやってはならないと思っています。「映画館こそが、映画を映画たらしめている」ということを念頭に、これからも映画館と共存関係で取り組んでいきたいと考えています。→図8

最後に、U-NEXTがやりたいことのまとめです。まずアーカイブをSVODでとにかく増やして、多くの方々にアクセスしやすいようにすることで、若い人たちが新たな監督や役者、ジャンルにはまるというきっかけをつくり、その後、その監督や役者、ジャンルの新作が公開されたときにはU-NEXTポイントを使って映画館でご覧いただく。残念ながら映画館で見逃してしまったり、近くの映画館で上映されなかった場合は、TVODでご覧いただく。そしてまたアーカイブはSVODで見ていただく、という循環を生み出したいと考えています。映画は習慣性のエンタメだと思っていますので、習慣性を途絶えさせることがないように、この循環をぐるぐる回して、結果、日本の映画人口を増やしたいというのが、我々の最終目標です。→図9

図9：映画の習慣性を維持できるサービスに



## 映画館からクリエイターが生まれる

### とちぎ：

配信側からの発言を受けて、逆に映画館の方から配信に対して何か提案ができるようになると、これから面白くなると感じます。本日の最初のセッションでもありましたが、子どもの頃から映画館に行って映画を見ることが習慣になり、映画の観客になったことによって、クリエイターが生まれるというのが当たり前のことかもしれません。クリエイターだけでなく映画を支えている人たち、上映者や配給に携わる人たちも、映画館で映画を見るところから生まれてくると考えれば、是枝監督もおっしゃっていましたが、“業界のセーフティネット”としてミニシアターを育てていかないと、人材が育たないのではないかとすることは、全くその通りだと思います。岨手監督には、先ほどのお話でも少し触れていただきましたが、作り手と映画館との関係についてもう少し補っていただけますでしょうか。

### 岨手：

先ほど佐々木さんがおっしゃったことには私も全く同感です。映画が非常に好きで、少しやってみて自分はやっていけるかもしれないという感触がある人をフックアップして育てるだけだと裾野は広がらないと思います。

クリエイター支援は非常に重要ですが、まずは観客を育てるという視点が重要だと思います。ミニシアターなどの映画館がない状況で育った若年層には映画監督になる可能性が断たれてしまいます。映画館で映画を見て友だちと感想を語り合うようなことは、映画を見るという体験・環境の底上げをしないとできないと思います。先日、ニュースで読書離れについて取り上げられていました。私にも子どもがいて、毎日読み聞かせをします。幼いときの読み聞かせの体験がないと、小学生になって児童書を読むことはないと思います。エルマーから始まり、ハリーポッターを読んで、ライトノベルを手にとるというステップがあるから、大学生になって、自分の好きな作家の本を読むという読書体験が継続するわけですが、読み聞かせで本に出会ったことがないのに、いきなりノーベル文学賞を取れと言われても、それは無理な話だと思います。つまり、まず、映画を見るという体験自体を広く普及させる必要があって、

映画を見るという習慣を底上げすることが重要です。優れたクリエイターの卵が海外留学の機会等を通じてブラッシュアップすることを支援する制度があることは非常によいとは思いますが、卵が生まれるにはやはりミニシアター、コミュニティシネマという存在が不可欠ではないかと思っています。

### とちぎ：

これまでのご議論を聞いたうえで青木さんと田村さんからコメントを頂けましたら幸いです。

### 青木：

まずは映画を見る、見せることで、映画監督をはじめ映画業界に入りたいという人を増やし、映画産業が大きくなっていくという点で、ミニシアターの存在が重要ということには議論の余地はないと思います。そうした中で、政府として、いかに全体として映画産業を盛り上げていくかが重要だと認識していますので、映画戦略企画委員会が始まったばかりですけれども、今後の議論も踏まえ引き続き検討してまいりたいと考えています。

### 田村：

私自身も大学生の頃は1年に約200本を映画館で見て、映画というのは本当にいいものだと感じてきました。日本で年間1000本を超える作品が公開される中で、その大部分をミニシアターが上映しているという現状があります。先ほど上映された監督たちのメッセージでもミニシアターへの強い思いが語られていましたが、私自身も様々な機会にクリエイターからミニシアターの重要性について伺うことが多いです。世界的に評価の高い監督たち、作り手たちが育ててきた育成の場でもあるというところで、今後様々な方にヒアリングなどをしながらにはなるとは思います。今後研究してまいりたいと考えています。

### 佐々木：

映画戦略企画委員会の委員の中には、是枝監督や、東宝の松岡社長が入っておられますが、日本の映画文化を支えているミニシアター関係者の意見も吸い上げていただきたいと強く思っておりますので、是非メンバーのご推薦の機会がありましたら、そういうことでお願いできればと思います。

### とちぎ：

是非ご検討いただいて、そのように進めていただけたら幸いです。

最後に、志尾さんから、今回のこの議論を踏まえ、コミュニティシネマセンターの代表理事というお立場でコメントをいただければと思います。



## 新しい映画振興策の実現

志尾:

この会議で何をお話ししようかと考えながら、この20年を振り返ってみました。“コミュニティシネマ”という名称で私たちが進み出した大きなきっかけとなったのが、2001年の「文化芸術振興基本法」の公布でした。映画がメディア芸術のひとつに位置付けられ、国の文化施策として振興されるべき対象となったということは、私たちは国の文化施策の一翼を担っているといえるようになったということであり、私を含め、ここに集まる日々上映活動をしている皆さんにとって重要な意味もっています。大変な状況で活動する中で公的な支援を求めたいというときに、我々は文化の一翼を担っているのだから、と言えるようになった点でも非常に大きかったことを思い出しました。

2003年には文化芸術振興基本法のもとに議論された映画振興策について「12本の柱」が設定され、私たちもその中にあって、多種多様な映画を見ることができる環境を整えること、地域格差を埋めるということ必死にやってきました。日本映画はもちろんのこと、世界各国の映画を、多様な映画を上映するために、ただ、好きだからというだけでなく、私たちが映画文化を背負ってやっているのだと自負しながら取り組んできました。

けれど、映画館をはじめとした上映の場に対する支援はなかなか実現しませんでした。映画館支援の実現のために奔走する中で、なぜこの壁を突破できないのかと考えたときに、あんなに私たちが力を込めて力説してきた文化芸術振興基本法にも、そして12本の柱の中にも、“映画館を支援する”ということが謳われていないからだと感じたときの落胆は非常に大きかったです。

「12本の柱」から20年が経過して、映画を取り巻く環境はすさまじい勢いで変わっています。日本映画の振興をどうしていくのか、いままさに、新しい振興策の立案が進められようとしています。“クリエイター支援”というキーワードのもとに、映画振興について議論が行われています。先ほど佐々木会長が言ってくださいましたが、クリエイター育成という目的達成のための手段というところに、私たち上映者が確実に関わっているのだということを強く申し上げたいと思います。これから、この議論は様々な形で進んでいくのだと思うのですが、そうした中で製作支援や海外展開はもちろん非常に大事だと思うのですが、そこにとどまることがないように、抜本的な見直しができることを、希望を持って熱望したいと思います。

先ほど上映された監督たちのメッセージの中で、小田香監督が、映画をつくただけでは意味がなく、つくったあとに映画館で上映されたときに始まるという言葉の使い方をされていました。私自身も、人様に見てもらわなければ映画が完成したことにならないということを前代表や上映者の皆さんに教えていただきました。それは上映者や制作者を含めた多くの映画人が持っている感覚だと思います。そういう、映画を上映

する大事な場を私たちは守りたいし、その仕事に誇りを持ち続けたいと思っています。今後の映画業界に対する支援策において、映画館や映画を上映する場を守るということへの支援も是非とも取り入れていただきたいと思います。上映をする場所を守る若い人たちのためにも、その振興策の中に、映画館や映画上映の場という視点も入れていただけたら大変ありがたいと思っている次第です。(拍手)

とちぎ:

ミニシアターをはじめとした映画館は、観客に映画を届けるという社会的な責任をずっと果たしてきたことは、これまでの議論からも明らかです。その中には、新たなクリエイターを育てていくという働きもあり、それを継続させるためには、組織そのものが持続可能なものにならなくてはなりません。そのために具体的な施策として何ができるのかということに関係者の皆様、それから省庁関係の皆様と議論を続けて、具体的な成果が出るようにこれからも議論を継続させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。

(2024年9月19日 全国コミュニティシネマ会議2024イン川崎)

